

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 27 年 3 月 12 日 (2015.3.12)

【公開番号】特開 2014-140662 (P2014-140662A)
 【公開日】平成 26 年 8 月 7 日 (2014.8.7)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-042
 【出願番号】特願 2013-267278 (P2013-267278)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 C

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 1 月 26 日 (2015.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前面側に開口を有する筐体と、
 前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
 遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記開口を正面視した状態での左右両側から前記制御手段を支持する第 1 支持手段と、
前記第 1 支持手段を前記筐体の内部に支持する第 2 支持手段と、
前記第 1 支持手段を前記第 2 支持手段に対して取り外し不可に連結する連結部材と、
 を備え、
前記連結部材は、前記筐体の内側面と対向する位置に設けられている
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】遊技機

【技術分野】

【0001】

この発明は、スロットマシン等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技機の代表例として例えばスロットマシンがある。このスロットマシンは、例えば、前面側に開口を有する箱状の本体キャビネットと、この本体キャビネットの前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、当該スロットマシンの遊技に関する制御を行う制御基板がケースに収納された制御装置と、を備えたものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2003-250961号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、このような構成を有する従来例の場合には、次のような問題がある。

すなわち、従来のスロットマシンでは、制御手段に対する不正行為を十分に低減できていないという問題がある。

【0005】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

この発明は、このような目的を達成するために、次のような構成をとる。

すなわち、請求項1に記載の発明は、

前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

遊技に関する制御を行う制御手段と、

前記開口を正面視した状態での左右両側から前記制御手段を支持する第1支持手段と、

前記第1支持手段を前記筐体の内部に支持する第2支持手段と、

前記第1支持手段を前記第2支持手段に対して取り外し不可に連結する連結部材と、
を備え、

前記連結部材は、前記筐体の内側面と対向する位置に設けられている

ことを特徴とする遊技機である。

【発明の効果】

【0007】

この発明に係る遊技機によれば、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】実施例1のスロットマシンの前面扉を閉じた状態の斜視図である。

【図2】実施例1のスロットマシンの正面図である。

【図3】前面扉を取り外した状態でのスロットマシンの内部を示す図である。

【図4】前面扉の裏面図である。

【図5】前面扉を空けて主制御装置を引き出した状態の実施例1のスロットマシンの斜視図である。

【図6】主制御装置が収納支持状態である実施例1の取付台を示す斜視図である。

【図7】回動枠体を水平姿勢に傾倒した状態の取付台を示す斜視図である。

【図8】水平姿勢の回動枠体からスライド枠体を引き出した状態の取付台を示す斜視図である。

【図9】引き出したスライド枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台を示す斜視図である。

【図10】固定ベースと回動枠体とスライド枠体との連結を示す斜視図である。

【図11】(a)、(b)は、固定ベースの前方斜視図、後方斜視図である。

【図12】固定ベースと回動枠体との連結を示す斜視図である。

【図13】固定ベースに回動枠体のみが起立姿勢で係止された状態での左端部分を示す部分平面図、(b)は(a)に示すA-A線断面図、(c)は(b)の部分断面斜視図である。

【図14】(a)は、固定ベースと起立姿勢の回動枠体との縦断面図、(b)は、固定ベ

ースと傾倒姿勢の回動枠体との縦断面図である。

【図 1 5】(a) , (b) は、図 1 4 (a) , (b) の断面箇所の拡大斜視図、(c) は、図 6 の取付台の右端側の縦断面図、(d) は、図 7 の取付台の右端側の縦断面図、(e) , (f) は、図 1 5 (c) , (d) の断面箇所の拡大斜視図である。

【図 1 6】主制御装置のスライド枠体へのかしめを説明するための取付台の分解斜視図である。

【図 1 7】主制御装置の分解斜視図である。

【図 1 8】主制御装置のスライド枠体へのかしめを解除する手順を示す図である。

【図 1 9】(a) は、かしめ状態の二重かしめピン及び別被封止部の斜視図、(b) は、(a) 状態での別被封止部の斜視図、(c) は、(a) 状態での二重かしめピンの斜視図、(d) は、切断された別被封止部を 9 0 度回転させた状態の二重かしめピン及び別被封止部の斜視図、(e) は、(b) 状態での別被封止部の斜視図、(f) は、(b) 状態での二重かしめピンの斜視図である。

【図 2 0】(a) は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所の部分横断面図、(b) は、(a) の横断面斜視図、(c) は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所の部分縦断面右側視図、(d) は、(c) の縦断面右側斜視図である。

【図 2 1】(a) は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所であって切断された別被封止部を 9 0 度回転させた状態での部分横断面図、(b) は、(a) の横断面斜視図、(c) は、スライド枠体及び主制御装置のかしめ箇所であって切断された別被封止部を 9 0 度回転させた状態での部分縦断面右側視図、(d) は、(c) の縦断面右側斜視図である。

【図 2 2】前面扉を取り外した状態での実施例 2 のスロットマシンの内部を示す図である。

【図 2 3】前面扉を空けて主制御装置を引き出した状態の実施例 2 のスロットマシンの斜視図である。

【図 2 4】主制御装置が収納支持状態である実施例 2 の取付台を示す斜視図である。

【図 2 5】支持枠体を水平姿勢に傾倒した状態の取付台を示す斜視図である。

【図 2 6】取付台でのリンク枠体が伸張途中である様子を示す斜視図である。

【図 2 7】図 2 6 に示した状態の取付台の側面図である。

【図 2 8】取付台のリンク枠体を伸張状態として主制御装置を引き出した状態の斜視図である。

【図 2 9】引き出した支持枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台を示す斜視図である。

【図 3 0】固定ベースとリンク枠体と支持枠体との連結を示す斜視図である。

【図 3 1】(a) , (b) は、固定ベースの前方斜視図、後方斜視図である。

【図 3 2】固定ベースとリンク枠体との連結を示す斜視図である。

【図 3 3】(a) は、固定ベースにリンク枠体のみが起立姿勢で係止された状態の平面図、(b) は (a) に示す B - B 線断面図である。

【図 3 4】(a) は、固定ベースと起立姿勢のリンク枠体との縦断面図、(b) は、固定ベースと傾倒姿勢のリンク枠体との縦断面図である。

【図 3 5】(a) , (b) は、図 3 4 (a) , (b) の断面箇所の拡大斜視図、(c) は、図 2 4 の取付台の右端側の縦断面図、(d) は、図 2 8 の取付台の右端側の縦断面図、(e) , (f) は、図 3 5 (c) , (d) の断面箇所の拡大斜視図である。

【図 3 6】(a) は、リンク枠体の第 1 腕部材と第 2 腕部材との連結状態を示す部分斜視図、(b) は第 1 腕部材と第 2 腕部材との分解斜視図、(c) は第 2 小歯車と第 3 小歯車とを示す斜視図である。

【図 3 7】支持枠体と第 1 腕部材との連結箇所を示す分解斜視図である。

【図 3 8】支持枠体と第 1 腕部材との連結箇所を示す部分斜視図である。

【図 3 9】主制御装置が装着されて水平姿勢の支持枠体と第 1 腕部材との連結箇所を示す部分斜視図である。

【図４０】主制御装置が装着されて反転傾斜姿勢の支持枠体と第１腕部材との連結箇所を示す部分斜視図である。

【図４１】（ａ）は、支持枠体を引き出して水平姿勢とした場合の第１回動連結部の部分側面図、（ｂ）は、（ａ）の支持枠体を反転傾斜姿勢とした場合の第１回動連結部の部分側面図である。

【図４２】（ａ）～（ｄ）は、リンク枠体が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台の側面図である。

【図４３】（ａ）～（ｄ）は、リンク枠体が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台の前方斜視図である。

【図４４】（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材の支持ピンの車輪が第２腕部材の案内レールで案内される様子を示す要部部分を正面視した縦断面図である。

【図４５】（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材の支持ピンの車輪が第２腕部材の案内レールで案内される様子を示す要部部分を前方斜視した縦断面斜視図である。

【図４６】（ａ）～（ｄ）は、第１腕部材の支持ピンの車輪が第２腕部材の案内レールで案内される様子を示す要部部分を前方斜視した横断面斜視図である。

【図４７】前面扉を取り外した状態での実施例３のスロットマシンの内部を示す図である。

【図４８】実施例３の取付台の引出姿勢規制部の分解斜視図である。

【図４９】（ａ）は、主制御装置が収納支持状態である実施例３の取付台を示す斜視図、（ｂ）は、回動枠体を傾けた状態の実施例３の取付台を示す斜視図である。

【図５０】（ａ）は、回動枠体を水平姿勢に傾倒した状態の実施例３の取付台を示す斜視図、（ｂ）は、水平姿勢の回動枠体からスライド枠体を引き出した状態の実施例３の取付台を示す斜視図である。

【図５１】引き出したスライド枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例３の取付台を示す斜視図である。

【図５２】（ａ）は、主制御装置が収納支持状態である実施例３の取付台を示す側面図、（ｂ）は、回動枠体を傾けた状態の実施例３の取付台を示す側面図である。

【図５３】（ａ）は、回動枠体を水平姿勢に傾倒した状態の実施例３の取付台を示す側面図、（ｂ）は、水平姿勢の回動枠体からスライド枠体を引き出した状態の実施例３の取付台を示す側面図である。

【図５４】引き出したスライド枠体の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例３の取付台を示す側面図である。

【図５５】変形例のスライド枠体を示す斜視図である。

【図５６】変形例の支持枠体を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

【００１０】

【００１１】

【００１２】

【００１３】

【００１４】

【００１５】

【００１６】

以下、遊技機の一例としてスロットマシンの各種の実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。なお、本発明を弾球遊技機的一种であるパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）、特に、第１種パチンコ遊技機や第３種パチンコ遊技機（権利物とも呼ばれる）、コイン遊技機等の他の遊技機に用いることは、当然に可能である。

【実施例１】

【００１７】

図１は、実施例１のスロットマシン１０の前面扉を閉じた状態の斜視図である。図２は

、実施例１のスロットマシン１０の正面図である。図３は、前面扉１２を取り外した状態での実施例１のスロットマシン１０の内部を示す図である。図４は、前面扉１２の裏面図である。図５は、前面扉１２を空けて主制御装置７０を引き出した状態の実施例１のスロットマシン１０の斜視図である。

【００１８】

本実施例のスロットマシン１０は、図１に示すように、前面側に開口部１１ａ（図５参照）を有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２とを備えている。前面扉１２は、図１，図２に示すように、その左辺を回転軸Ｊ１として、本体１１に回動可能（開閉可能）に取り付けられている。また、スロットマシン１０は、図１，図２に示すように、前面扉１２を閉じた状態で施錠装置２０により前面扉１２と本体１１とが施錠される。

【００１９】

前面扉１２には、図１，図２に示すように、遊技の進行に伴い点灯したり点滅したりする上部ランプ１３と、遊技の進行に伴い種々の効果音を鳴らしたり遊技者に遊技状態を報知したりするスピーカ１４，１４と、各種表示内容を表示する液晶ディスプレイ１５と、後述する左回胴Ｌと中回胴Ｍと右回胴Ｒ（図３参照）とをそれぞれ透視可能な遊技パネル３０と、略中段付近にて各種ボタン５１，５３～５６，６１，６３やスタートレバー５２やメダル投入口５７が設けられた操作部５０と、機種名や遊技に関わるキャラクタなどが表示された下段表示部１６と、メダル払出口１７から払い出された遊技用媒体としてのメダルを受けるメダル受け皿１８とが装着されている。

【００２０】

また、スロットマシン１０の内部には、図３に示すように、電源ボックス８５と、ホッパ８６と、リールユニット２５と、主制御装置７０と、表示用制御装置９４（図４参照）とが装着されている。

【００２１】

電源ボックス８５は、図３，図５に示すように、オンされるとスロットマシン１０の各部に電源を供給する電源スイッチ８１を備えている。

【００２２】

ホッパ８６は、図３，図５に示すように、溢れるメダルの外部への誘導口８９を有し投入されたメダルを貯留する補助タンク８７とこの補助タンク８７内のメダルを払出用通路９２（図４参照）に通じる開口９３（図４参照）を介してメダル払出口１７へ払い出す払出装装置８８とから構成されている。

【００２３】

リールユニット２５は、図３，図５に示すように、複数の図柄を表示する左回胴Ｌと中回胴Ｍと右回胴Ｒとを有し、これらの左回胴Ｌ、中回胴Ｍ及び右回胴Ｒを回転させることで複数の図柄を変動表示するものである。

【００２４】

主制御装置７０は、スロットマシン１０の遊技に関する制御を行うものである。また、主制御装置７０は、ＣＰＵを中心とするマイクロコンピュータとして構成されており、処理プログラムを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭや入出力処理回路がバスによって接続されている。

【００２５】

表示用制御装置９４（図４参照）は、ＣＰＵを中心とするマイクロコンピュータとして構成されており、主制御装置７０からの出力信号による液晶ディスプレイ１５の表示内容の制御を行う。なお、この表示用制御装置９４は、図４に示すように、前面扉１２の裏面側の上部箇所に取り付けられている。

【００２６】

遊技パネル３０は、図１に示すように、リールユニット２５の左回胴Ｌ、中回胴Ｍ及び右回胴Ｒ（図３参照）の停止中または回転中の様子を外部に露出する露出窓３１Ｌ，３１Ｍ，３１Ｒを備え、露出窓３１Ｌの左側に配設された５つのベットランプ３２，３３，３

3, 34, 34と、この露出窓31L, 31M, 31Rの下側に配設されている、スロットマシン内部に貯留されている枚数を表示するものであるクレジット枚数表示部35と、ビックボーナス時にあと何回JAC(ジャック)インできるかとかJACゲーム時にあと何回JAC図柄成立が残っているかといった回数を表示するものであるゲーム数表示部36と、有効ライン上に同じ図柄が揃って入賞したときに払い出された枚数を表示するものである払出枚数表示部37とを備えている。

【0027】

操作部50は、図1, 図2に示すように、前面扉12の前面部に設けられたクレジットボタン51と、スタートレバー52と、左回胴用ストップボタン53と、中回胴用ストップボタン54と、右回胴用ストップボタン55と、返却ボタン56と、前面扉12の水平段部に設けられたメダル投入口57と、1枚ベットボタン61と、マックスベットボタン63とを備えている。

【0028】

ここで、スロットマシン10の主制御装置70及びその主制御装置70が取り付けられる取付台100の構造などについて、図6～図16を用いて、もう少し詳細に説明する。

【0029】

図6は、主制御装置70が収納支持状態である実施例1の取付台100を示す斜視図である。図7は、回動枠体120を水平姿勢に傾倒した状態の取付台100を示す斜視図である。図8は、水平姿勢の回動枠体120からスライド枠体130を引き出した状態の取付台100を示す斜視図である。図9は、引き出したスライド枠体130の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台100を示す斜視図である。図10は、固定ベース110と回動枠体120とスライド枠体130との連結を示す斜視図である。図11(a), (b)は、固定ベース110の前方斜視図, 後方斜視図である。図12は、固定ベース110と回動枠体120との連結を示す斜視図である。図13(a)は、固定ベース110に回動枠体120のみが起立姿勢で係止された状態での左端部分を示す部分平面図、図13(b)は(a)に示すA-A線断面図、図13(c)は(b)の部分断面斜視図である。図14(a)は、固定ベース110と起立姿勢の回動枠体120との縦断面図、図14(b)は、固定ベース110と傾倒姿勢の回動枠体120との縦断面図である。図15(a), (b)は、図14(a), (b)の断面箇所の拡大斜視図、図15(c)は、図6の取付台100の右端側の縦断面図、図15(d)は、図7の取付台100の右端側の縦断面図、図15(e), (f)は、図15(c), (d)の断面箇所の拡大斜視図である。図16は、主制御装置70のスライド枠体130へのかしめを説明するための取付台100の分解斜視図である。

【0030】

スロットマシン10は、図3に示すように、その本体11の内部奥側で、且つ、リールユニット25の上方位置に取り付けられた取付台100に、当該スロットマシン10の遊技を統括制御する主制御装置70が取り付けられている。

【0031】

取付台100は、図3, 図6に示すように、主制御装置70を本体11の内部奥側で且つリールユニット25の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、図5, 図8に示すように、主制御装置70をその前面及び裏面が視認可能に本体11の開口部11aから引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位するものである。

【0032】

具体的には、取付台100は、図5～図8に示すように、金属製の固定ベース110と、透明樹脂成型品である回動枠体120及びスライド枠体130とを備えている。

【0033】

固定ベース110は、図10, 図11に示すように、その正面視で横長の長方形状であり、金属製の板状部材で構成されている。また、固定ベース110は、図3, 図5に示すように、本体11の内部奥側面箇所で、且つ、リールユニット25の上方箇所に固定されている。固定ベース110は、図11に示すように、その両側箇所にそれぞれネジ挿入孔

１１１が形成されており、このネジ挿入孔１１１にネジ１１７（図３参照）を挿入して本体１１にネジ止めすることで本体１１に固定されている。

【００３４】

なお、ネジ挿入孔１１１に挿入するネジ１１７のネジ山部分に接着剤を付けた状態で、固定ベース１１０を本体１１にネジ止めすることで、ネジを接着固定してしまい、このネジ１１７を取り外せないようにしてもよい。また、締める方向にしか回せないワンウェイネジや、締める方向に一定以上の力がかかるとネジ頭の一部が破断する破断ネジなどで、固定ベース１１０をネジ止め固定するようにしてもよい。

【００３５】

さらに、固定ベース１１０は、図１０に示すように、回動枠体１２０が取り外し不可に連結されており、当該回動枠体１２０を起立姿勢（図６参照）と傾倒姿勢（図７参照）とに回動自在に支持するものである。

【００３６】

具体的には、固定ベース１１０は、図１１（ａ）に示すように、その正面視下辺側に、前方方向に突出させるように折り曲げた水平突出部１１２を備えている。この水平突出部１１２は、その両端側がそれぞれに上方向に折り曲げられた一对の支持片部１１３，１１３を備えるとともに、この一对の支持片部１１３，１１３の前方側箇所に水平方向に貫通した挿入孔１１４が形成されている。

【００３７】

固定ベース１１０は、図１２に示すように、回動枠体１２０の両側下部箇所にそれぞれ形成された入口孔１２０ａと、ワッシャー１２０ｂ（座金）と、固定ベース１１０の一对の支持片部１１３，１１３の先端側の挿入孔１１４と、回動枠体１２０の入口孔１２０ａと同一軸心で間隔を空けて近設された軸孔１２０ｃ（図１３（ｂ），（ｃ）参照）とに、その順に、ベース用圧入ピン１１５を挿入した状態で当該ベース用圧入ピン１１５を回動枠体１２０の軸孔１２０ｃに圧入する（図１３（ｂ），（ｃ）に示すように、ベース用圧入ピン１１５は、固定ベース１１０の支持片部１１３の挿入孔１１４に対して遊嵌状態であり、回動枠体１２０の軸孔１２０ｃよりも僅かに径の大きいベース用圧入ピン１１５が強引に入れられて密着状態となっている）ことで、このベース用圧入ピン１１５が回動枠体１２０の軸孔１２０ｃから抜けなくなり、回動枠体１２０が固定ベース１１０に対して回動可能で取り外し不可に連結されている。

【００３８】

また、固定ベース１１０は、図１０に示すように、回動枠体１２０の左側面部１２２及び右側面部１２３の係止爪１２１と対向する各箇所に、その係止爪１２１が挿入されて係止される係止孔１１６をそれぞれ備えている。

【００３９】

また、固定ベース１１０は、図１２，図１４及び図１５に示すように、その水平突出部１１２の前端側が上方向に折り曲げられた折り曲げ部１１２ａを備えている。この折り曲げ部１１２ａは、その上辺部分が、後述する回動枠体１２０を傾倒姿勢（図７参照）とした場合に当該回動枠体１２０の段差部１２４ａに当接し、回動枠体１２０を水平な傾倒姿勢（図７参照）で支持するための構成である。

【００４０】

次に、回動枠体１２０は、図１０を用いて前述したように、固定ベース１１０の下辺側を回動軸１２０ｄとして当該固定ベース１１０に対して回動可能に支持されている。

【００４１】

また、回動枠体１２０は、図１０に示すように、左側面部１２２及び右側面部１２３と、この左側面部１２２及び右側面部１２３の両下端側を結ぶ底面部１２４とを備えており、図１０に示す水平状態において平面視でコノ字形状に樹脂成型されたものである。

【００４２】

また、回動枠体１２０は、図１０に示すように、その左側面部１２２及び右側面部１２３の固定ベース１１０と対向する側の箇所に係止爪１２１がそれぞれ形成されている。

【 0 0 4 3 】

図 6 に示すように、回動枠体 1 2 0 を起立姿勢とした状態では、回動枠体 1 2 0 の係止爪 1 2 1 が固定ベース 1 1 0 の各係止孔 1 1 6 にそれぞれ係止されるので、回動枠体 1 2 0 が起立姿勢状態で固定ベース 1 1 0 に保持される。

【 0 0 4 4 】

また、回動枠体 1 2 0 は、図 1 2 に示すように、その底面部 1 2 4 の上面側で、且つ、回動軸 1 2 0 d の近接箇所に、回動軸 1 2 0 d の方が一段下がった段差部 1 2 4 a を備えている。段差部 1 2 4 a は、図 1 4 及び図 1 5 に示すように、回動枠体 1 2 0 を傾倒姿勢（図 7 参照）とした場合に、固定ベース 1 1 0 の水平突出部 1 1 2 の折り曲げ部 1 1 2 a に当接し、回動枠体 1 2 0 を水平な傾倒姿勢（図 7 参照）で支持するための構成である。

【 0 0 4 5 】

さらに、回動枠体 1 2 0 は、図 1 0 に示すように、スライド枠体 1 3 0 が取り外し不可に連結されており、スライド枠体 1 3 0 を収めた収容位置（図 7 参照）とこの収容位置から進出した進出位置（図 8 参照）とに当該スライド枠体 1 3 0 を進退自在に支持する。

【 0 0 4 6 】

具体的には、回動枠体 1 2 0 は、図 1 0 に示すように、固定ベース 1 1 0 に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態（図 7 参照）で、スライド枠体 1 3 0 を収容位置（図 7 参照）と進出位置（図 8 参照）とにスライド進退自在に支持するスライド支持部 1 2 5 と、スライド枠体 1 3 0 をスライド進出させて進出位置にある状態（図 8 参照）では、当該スライド枠体 1 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した水平状態で保持する水平保持部 1 2 6 とを備えている。

【 0 0 4 7 】

さらに詳細に言えば、回動枠体 1 2 0 は、図 1 0 に示すように、その左側面部 1 2 2 及び右側面部 1 2 3 にそれぞれ形成された、スライド枠体 1 3 0 のスライド方向に長いスリット孔 1 2 7（細長孔）を備えている。また、スライド枠体 1 3 0 は、図 1 0 に示すように、平面視でコノ字状の当該スライド枠体 1 3 0 での両腕部 1 3 1，1 3 1 の先端側箇所それぞれにスライド方向に間隔を空けて 2 個形成された、回動枠体 1 2 0 と対向する側に開口したかしめ穴 1 3 2 を備えている。

【 0 0 4 8 】

そして、この回動枠体 1 2 0 は、図 1 0 に示すように、スリット孔 1 2 7 とかしめ穴 1 3 2 とに、その順に、レール用圧入ピン 1 2 8 を挿入した状態で当該レール用圧入ピン 1 2 8 を圧入する（図 1 0 に示すように、レール用圧入ピン 1 2 8 は、回動枠体 1 2 0 のスリット孔 1 2 7 の短幅よりも径の大きい頭部 1 2 8 a と、スライド枠体 1 3 0 のかしめ穴 1 3 2 の径よりも僅かに大きい径のピン部 1 2 8 b とを備えたものであり、回動枠体 1 2 0 のスリット孔 1 2 7 に対して遊嵌状態であり、スライド枠体 1 3 0 のかしめ穴 1 3 2 よりも僅かに径の大きいレール用圧入ピン 1 2 8 のピン部 1 2 8 b が強引に入れられて密着状態となっている）ことでレール用圧入ピン 1 2 8 が抜けなくなり、スライド枠体 1 3 0 がスライド自在で取り外し不可に連結されている。

【 0 0 4 9 】

つまり、スライド支持部 1 2 5 は、スリット孔 1 2 7 とかしめ穴 1 3 2 とレール用圧入ピン 1 2 8 とで構成されている。また、水平保持部 1 2 6 は、図 8 に示すように、スライド枠体 1 3 0 を最大に引き出した状態で手前側及び奥側のレール用圧入ピン 1 2 8 が水平方向のスリット孔 1 2 7 に位置することで構成されている。

【 0 0 5 0 】

また、回動枠体 1 2 0 は、図 8 に示すように、水平姿勢とした状態で左側面部 1 2 2 及び右側面部 1 2 3 の内側下部箇所に、後述するスライド枠体 1 3 0 の線状突起部 1 3 3 をスライド自在に受けるスライド用溝部 1 2 9 が上向き開口した状態でその辺方向に沿って形成されている。このスライド用溝部 1 2 9 は、図 1 2，図 1 3 に示すように、回動枠体 1 2 0 の左側面部 1 2 2 及び右側面部 1 2 3 の辺方向に沿って形成されている。つまり、スライド枠体 1 3 0 の線状突起部 1 3 3 が回動枠体 1 2 0 のスライド用溝部 1 2 9 に摺動

することで、スライド枠体 130 が回転枠体 120 に対してスライドする構成でもある。

【0051】

なお、図 7 に示すように、スライド枠体 130 が回転枠体 120 の収容位置にある状態では、スライド枠体 130 の両側の線状突起部 133 が回転枠体 120 の両側のスライド用溝部 129 にスライド可能に支持されており、スリット孔 127 に挿入されたレール用圧入ピン 128 に対する負荷（主制御装置 70 及びスライド枠体 130 によるレール用圧入ピン 128 に対する荷重）は低減されている。

【0052】

スライド枠体 130 は、図 16 に示すように、二重かしめピン 193 及びタッピンネジ 197 を用いて、主制御装置 70 が装着（図 8 参照）されており、タッピンネジ 197 を取り外すとともに二重かしめピン 193 によるかしめを解除しない限り、主制御装置 70 が取り外し不可に装着されている。

【0053】

具体的には、主制御装置 70 は、図 10 に示す引出状態のスライド枠体 130 の上部からその両腕部 131，131 の間に位置させるように挿入され、図 16 に示すように二重かしめピン 193 及びタッピンネジ 197 を用いて当該スライド枠体 130 に装着される。

【0054】

次に、スライド枠体 130 は、図 10 に示す水平状態において平面視でコノ字形状に樹脂成型されたものであり、幅方向に長い横長枠部 134 と、この横長枠部 134 の両端部から同一方向に延出した、回転枠体 120 に回転可能に連結される両腕部 131，131 とを備えている。この横長枠部 134 は、図 10 に示す水平状態において、その下辺部が両腕部 131，131 と同一方向に延出し、且つ、その幅長さにわたる延出部 135 を備えている。この延出部 135 は、主制御装置 70 の上端部分の少なくとも一部を支持するためのものである。さらに、この延出部 135 は、図 16 に示すように、後述する二重かしめピン 193 が挿入されるピン挿入孔 136 が 4 個形成されている。また、両腕部 131，131 は、図 10 に示す水平状態において、その内側下部箇所に、主制御装置 70 の両端部分を支持するための支持用延出片 137 を備えている。

【0055】

また、スライド枠体 130 は、図 9 に示すように、その左側面部 122 及び右側面部 123 での水平姿勢状態としたときの下部側でその側辺方向に沿った線状突起部 133 が形成されている。

【0056】

また、図 5 に示すように、回転枠体 120 を水平状態にしてスライド枠体 130 を引き出した状態では、開いた状態の前面扉 12 を閉方向に回転させることで、スライド枠体 130 の正面視で左側部分の一部が前面扉 12 の内側右辺箇所（開閉軸 J1 に近い辺の一部箇所）に当接可能であり、かかる当接により前面扉 12 が閉まるのを抑え止めているので、主制御装置 70 の裏面の点検及び主制御装置 70 の脱着作業等が容易となるし、前面扉 12 の閉まりによる部品の破損を防止できる。

【0057】

ここで、主制御装置 70 について図 17 を用いて説明する。図 17 は、主制御装置 70 の分解斜視図である。

【0058】

主制御装置 70 は、図 17 に示すように、スロットマシン 10 の遊技を統括制御する主制御基板 73 と、この主制御基板 73 を内部に収容する基板ケース 74 とを備えている。

【0059】

基板ケース 74 は、主制御基板 73 が取り付けられるケース上 71 と、このケース上 71 での主制御基板 73 の取付面側に合わされるケース下 72 とを備え、ケース上 71 とケース下 72 とを合わせた状態での内部空間に主制御基板 73 を収容するものである。本実施例では、ケース上 71 及びケース下 72 は、例えば透明樹脂成型品としている。

【 0 0 6 0 】

この実施例では、主制御基板 7 3 は、図 1 7 に示すように、ＩＣ（集積回路）や各種スイッチ部品やコネクタなどの電子部品が実装される実装面を、ケース上 7 1 の内側面に対向させた状態で、ネジなどの締結部品でケース上 7 1 の内側面の所定箇所に取り付けられる。そして、主制御基板 7 3 が取り付けられたケース上 7 1 にケース下 7 2 を合わせることから、主制御基板 7 3 の半田面は、ケース下 7 2 の内側面に対向した状態となる。

【 0 0 6 1 】

主制御装置 7 0 は、図 1 7 に示すように、スロットマシン 1 0 をリセットするときに操作するリセットスイッチ 8 2 や、図示しない設定キーを挿入することにより、スロットマシン 1 0 の設定状態を変更可能にする設定キースイッチ 8 3 を備えている。具体的には、主制御基板 7 3 は、図 6 に示すように、右端上部箇所に上から順にリセットスイッチ 8 2（図 1 7 参照）と設定キースイッチ 8 3（図 1 7 参照）とを備えており、ケース上 7 1 の右端上部箇所にそれぞれ設けられた開閉蓋 7 1 a を開いて、リセットスイッチ 8 2 と設定キースイッチ 8 3 とが操作できる。

【 0 0 6 2 】

基板ケース 7 4 は、図 1 7 に示すように、主制御基板 7 3 が取り付けられたケース上 7 1 でのその主制御基板 7 3 の取付面側にケース下 7 2 を合わせた状態でケース上 7 1 またはケース下 7 2 の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向（本実施例では、例えば基板ケース 7 4 の短手方向）にスライド移動させることでケース上 7 1 とケース下 7 2 とを係止するケース係止部 1 7 0 を備えている。

【 0 0 6 3 】

ケース係止部 1 7 0 は、図 1 7 に示すように、ケース下 7 2 の両辺箇所（短手辺の両箇所）に当該辺方向に並設された複数個（本実施例では 3 個）の鉤状突起部 1 7 2 と、ケース上 7 1 の両辺箇所（短手辺の両箇所）に当該辺方向に並設された、鉤状突起部 1 7 2 が挿入されて係止可能な複数個（本実施例では 3 個）の被係止穴 1 7 3 と、を備えるとともに、図 1 7 に示すケース上 7 1 の各被係止穴 1 7 3 にケース下 7 2 の各鉤状突起部 1 7 2 を挿入させるように当該ケース上 7 1 とケース下 7 2 とを合わせた状態にして、ケース上 7 1 またはケース下 7 2 の少なくとも一方をその短手方向にスライド移動させることで被係止穴 1 7 3 に鉤状突起部 1 7 2 が係止するものである。

【 0 0 6 4 】

続いて、封止部材 1 5 0 及び別封止部材 1 9 0 について、図 1 8 ～図 2 1 も用いて説明する。

【 0 0 6 5 】

図 1 8 は、主制御装置 7 0 のスライド枠体 1 3 0 へのかしめを解除する手順を示す図である。図 1 9（a）は、かしめ状態の二重かしめピン 1 9 3 及び別被封止部 1 9 2 の斜視図、図 1 9（b）は、（a）状態での別被封止部 1 9 2 の斜視図、図 1 9（c）は、（a）状態での二重かしめピン 1 9 3 の斜視図、図 1 9（d）は、切断された別被封止部 1 9 2 を 90 度回転させた状態の二重かしめピン 1 9 3 及び別被封止部 1 9 2 の斜視図、図 1 9（e）は、（b）状態での別被封止部 1 9 2 の斜視図、図 1 9（f）は、（b）状態での二重かしめピン 1 9 3 の斜視図である。図 2 0（a）は、スライド枠体 1 3 0 及び主制御装置 7 0 ののかしめ箇所の部分横断面図、図 2 0（b）は、（a）の横断面斜視図、図 2 0（c）は、スライド枠体 1 3 0 及び主制御装置 7 0 ののかしめ箇所の部分縦断面右側視図、図 2 0（d）は、（c）の縦断面右側斜視図である。図 2 1（a）は、スライド枠体 1 3 0 及び主制御装置 7 0 ののかしめ箇所であって切断された別被封止部 1 9 2 を 90 度回転させた状態での部分横断面図、図 2 1（b）は、（a）の横断面斜視図、図 2 1（c）は、スライド枠体 1 3 0 及び主制御装置 7 0 ののかしめ箇所であって切断された別被封止部 1 9 2 を 90 度回転させた状態での部分縦断面右側視図、図 2 1（d）は、（c）の縦断面右側斜視図である。

【 0 0 6 6 】

さらに、基板ケース 7 4 は、図 1 6，図 2 0（a），（b）及び図 2 1（a），（b）

に示すように、その上部 2 箇所、主制御基板 73 が取り付けられたケース上 71 での主制御基板 73 の取付面側にケース下 72 を合わせた状態でケース上 71 およびケース下 72 を封止して当該基板ケース 74 を開封不可とする封止部材 150 を備えている。

【0067】

また、封止部材 150 は、図 20 (a), (b) 及び図 21 (a), (b) に示すように、ケース上 71 とケース下 72 とを合わせた状態での所定箇所に連通形成された有底係止穴 152 を有する被封止部 151 と、この被封止部 151 の有底係止穴 152 に挿入されて係止される挿入係止部 161 と当該挿入係止部 161 の挿入後端側に位置する頭部 162 とを有するかしめピン 160 と、を備えている。つまり、かしめピン 160 を被封止部 151 に挿入すると、かしめピン 160 の挿入係止部 161 が被封止部 151 の有底係止穴 152 に係止し、かしめピン 160 を被封止部 151 から抜き出すことができず、図 18 に示すように被封止部 151 のケース封止解除用被切断部 166 を破壊しない限り、基板ケース 74 を開封できない構造としている。

【0068】

また、取付台 100 及び主制御装置 70 は、図 6, 図 9 及び図 16 に示すように、当該主制御装置 70 をスライド枠体 130 に対して取り外し不可に封印する、封止部材 150 とは別の種類の別封止部材 190 を備えている。

【0069】

別封止部材 190 は、図 16 に示すように、スライド枠体 130 の裏面視の所定箇所に形成されたピン挿入孔 136 と、基板ケース 74 を支持枠体 120 に取り付けられた状態での所定箇所に連通形成された有底係止穴 191 を有する別被封止部 192 と、別被封止部 192 の有底係止穴 191 に挿入されて係止される外筒側係止部 194b を有する二重かしめピン 193 とを備えている。

【0070】

本実施例では、基板ケース 74 は、図 16 に示すように、その上部の 4 箇所に別被封止部 192 が設けられている。また、スライド枠体 130 は、図 16 に示すように、前記 4 個の別被封止部 192 と対応する各箇所にピン挿入孔 136 が設けられている。そして、二重かしめピン 193 は、スライド枠体 130 のピン挿入孔 136 を介して、基板ケース 74 の 4 個のうちの一つの例えば「B」と表記された箇所の別被封止部 192 に挿入されて、この別被封止部 192 に係止されることで、基板ケース 74 がスライド枠体 130 に固定される。なお、残りの 3 個の「C」～「E」と表記された箇所の別被封止部 192 は次回以降のかしめに使用可能である。

【0071】

二重かしめピン 193 は、有底係止穴 191 に挿入されると、その外筒側係止部 194b が当該有底係止穴 191 の被係止部 191a に係止された状態となり、この二重かしめピン 193 を抜くことができない。また、二重かしめピン 193 は、スライド枠体 130 のピン挿入孔 136 に挿入された状態では、さらに挿入方向に挿入しようとしても、図 20 (c), (d) に示すように、当該二重かしめピン 193 の後述するキー凸部 194f の先端がスライド枠体 130 のピン挿入孔 136 の突起部分 136b (キー凹部 136a の終端突起部) に当たるため、拔出方向にしか戻せない。したがって、二重かしめピン 193 が有底係止穴 191 に挿入されて被係止部 191a に係止されると、主制御装置 70 がスライド枠体 130 に固定された状態となり、図 18 (a) に示す取付解除用被切断部 196 を切断して別被封止部 192 をケース下 72 から分離しない限り、主制御装置 70 をスライド枠体 130 から抜き出すことができない。

【0072】

具体的には、二重かしめピン 193 は、図 16, 図 18 (e) に示すように、筒状の外ピン 194 と、この外ピン 194 の筒内に挿入される内ピン 195 とを備えている。

【0073】

内ピン 195 は、図 16, 図 18 (e) に示すように、外ピン 194 の筒内に挿入される胴部 195a と、その挿入方向後端側に形成された頭部 195b と、を備えている。内

ピン 195 の胴部 195 a の先端側には、外ピン 194 の挿入方向先端側の切り欠き部 194 e に係止する係止爪 195 c が設けられ、内ピン 195 の頭部 195 b には、その周方向にキー突起部 195 d が設けられている。

【0074】

外ピン 194 は、図 18 (e) に示すように、有底係止穴 191 (図 19 (b), 図 20 参照) に挿入される筒状本体部 194 a と、この筒状本体部 194 a の外側に形成された外筒側係止部 194 b と、筒状本体部 194 a の別被封止部 192 への挿入方向後端側に内ピン 195 の頭部 195 b が嵌り込む嵌合部 194 c とを備えている。外ピン 194 の嵌合部 194 c には、内ピン 195 の頭部 195 b のキー突起部 195 d が嵌合するキー溝部 194 d が形成されており、内ピン 195 の頭部 195 b のキー突起部 195 d がキー溝部 194 d に嵌合した状態では、内ピン 195 の係止爪 195 c が外ピン 194 の切り欠き部 194 e に係止しており、内ピン 195 が回転しないようになっている。

【0075】

図 18 (d) に示すように、内ピン 195 の頭部 195 b のキー突起部 195 d が外ピン 194 の嵌合部 194 c のキー溝部 194 d に嵌合するように筒内に挿入した状態の二重かしめピン 193 は、内ピン 195 の胴部 195 a の先端側の係止爪 195 c が外ピン 194 の切り欠き部 194 e に係止され、内ピン 195 が外ピン 194 が抜くことができないようになるとともに、内ピン 195 が外ピン 194 の筒内に挿入されたことで外ピン 194 が筒内方向に撓まないようになるため、内ピン 195 が挿入された状態では外ピン 194 を別封止部材 190 から抜くことができないようになっている。

【0076】

また、外ピン 194 の嵌合部 194 c の外周箇所には、キー凸部 194 f が形成されており、スライド枠体 130 のピン挿入孔 136 には、外ピン 194 のキー凸部 194 f が嵌合するキー凹部 136 a が形成されており、外ピン 194 のキー凸部 194 f がピン挿入孔 136 のキー凹部 136 a に嵌合した状態では、外ピン 194 が回転しないようになっている。

【0077】

なお、かしめピン 160 及び二重かしめピン 193 としては、樹脂成型品や金属製の材質のものなどが挙げられ、本実施例では樹脂成型品を採用している。

【0078】

さらに、別封止部材 190 は、図 16 に示すように、主制御装置 70 がスライド枠体 130 に固定された状態とするものであり、さらに、図 17, 図 18 に示すように、主制御装置 70 の支持枠体 120 への固定状態を解除するべく破壊される、ケース下 72 の所定箇所 (別被封止部 192 の上側 2 箇所及び下側 2 箇所の合計 4 箇所) に形成された取付解除用被切断部 196 (図 18 参照) を備えている。

【0079】

取付解除用被切断部 196 は、図 18 に示すように、ケース下 72 とその別被封止部 192 とを上下で結ぶ合計 4 箇所の連結部としている。

【0080】

図 18 (a) に示すように、ケース下 72 の 4 箇所の取付解除用被切断部 196 を切断すると、二重かしめピン 193 が別被封止部 192 の有底係止穴 191 に挿入されたまま、図 18 (b) に示すように、この切断された別被封止部 192 を回転させる (90 度回転させる) ことができる。この 90 度回転後の状態では、図 19 (d) ~ (f) に示すように外ピン 194 の外筒側係止部 194 b を別被封止部 192 の有底係止穴 191 の被係止部 191 a に係止されない状態となり、図 18 (c) に示すように、切断された別被封止部 192 を取り外すことができる。続いて、図 18 (d) に示すように、二重かしめピン 193 を拔出方向に抜くことができる。なお、内ピン 195 の胴部 195 a の先端側の係止爪 195 c を内向きに押しながら内ピン 195 を抜き出し方向に移動させることで、この内ピン 195 の係止爪 195 c と外ピン 194 の切り欠き部 194 e との係止を解除することができ、図 18 (e) に示すように、二重かしめピン 193 の外ピン 194 と

内ピン１９５とを分離することもできる。

【００８１】

また、スライド枠体１３０は、図９，図１６に示すように、その右側の腕部１３１の所定箇所に貫通孔１３８が形成されており、この貫通孔１３８に例えばタッピンネジ１９７を挿入した状態で基板ケース７４の挿入穴７１ｂ（図１６参照）に螺入されることで、このスライド枠体１３０と主制御装置７０とがさらに固定されている。なお、タッピンネジ１９７とは、雌ネジ不要ネジのことである。

【００８２】

また、取付台１００は、図３，図６に示すように、本体１１の開口視で取付解除用被切断部１９６が見えないように主制御装置７０を本体１１の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態（前述した収納支持状態）と、図５，図８に示すように、取付解除用被切断部１９６を露出させるように主制御装置７０を傾倒姿勢（水平姿勢）にして本体１１の開口部１１ａから引き出した状態で支持する露出引出支持状態（前述した引出支持状態）とに変位するものであるとも言える。また、図３，図６に示す隠蔽収納支持状態では、ケース封止解除用被切断部１６６が見えないし、図５，図８に示す露出引出支持状態では、ケース封止解除用被切断部１６６が露出している。

【００８３】

取付解除用被切断部１９６及びケース解除用被切断部１６６は、図１８に示すように、主制御装置７０の裏面側上部箇所に設けられている。

【００８４】

また、スライド枠体１３０は、主制御装置７０の露出引出支持状態（図８参照）において取付解除用被切断部１９６及びケース解除用被切断部１６６の下方箇所に、図１０及び図１８に示すように、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部１３５を備えている。

【００８５】

また、取付台１００は、図３，図６に示すように、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（前述した収納支持状態）と、図５，図８に示すように、スライド枠体１３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するように本体１１の開口部１１ａから引き出された引出状態（前述した引出支持状態）とに変位して、引出状態においてリールユニット２５を保護するものであるとも言える。

【００８６】

具体的には、主制御装置７０がスライド枠体１３０に取り付けられ、取付台１００は、図３，図６に示すように、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納するようにスライド枠体１３０を支持する収納支持状態と、図５，図８に示すように、スライド枠体１３０の先端側部分がリールユニット２５よりも前側に位置するようにスライド枠体１３０を本体１１の開口部１１ａから引き出して支持する引出支持状態とに変位して、引出状態においてリールユニット２５を保護するものである。

【００８７】

また、スライド枠体１３０は、図１０に示すように、引出支持状態において主制御装置７０が載置される前述した延出部１３５及び支持用延出片１３７を備えている。延出部１３５及び支持用延出片１３７は、図１０に示すように、引出支持状態のスライド枠体１３０の下部側に形成されており、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前部分とを支持する透明支持部である。

【００８８】

また、取付台１００による引出支持状態のスライド枠体１３０（図５参照）は、主制御装置７０が延出部１３５及び支持用延出片１３７から持ち上げて取り外され、主制御装置７０が延出部１３５及び支持用延出片１３７に載置して取り付けられる。

【００８９】

さらに、取付台 100 は、図 9 に示すように、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 11a から引き出した引出支持状態（図 8 参照）でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更機構部 140 を備えている。

【0090】

この姿勢変更機構部 140 は、図 9 に示すように、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 11a から引き出した引出支持状態（図 8 参照）でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部 141 を備えている。

【0091】

具体的には、回動枠体 120 は、図 9 に示すように、水平保持部 126 で水平状態で保持されたスライド枠体 130（図 8 参照）をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（反転傾斜姿勢）で保持する表向き傾斜姿勢保持部 141 を備えている。

【0092】

さらに詳細に言えば、回動枠体 120 のスリット孔 127 は、図 10 に示すように、回動枠体 120 の右側面部 122 及び左側面部 123 において、軸孔 120c の近傍箇所からスライド枠体 130 のスライド方向に長い水平スリット部 127a と、この水平スリット部 127a の先端側に連通して垂直方向に延びた垂直スリット部 127b と、この垂直スリット部 127b と水平スリット部 127a との交点を軸として垂直スリット部 127b の長さを半径として当該垂直スリット部 127b の上端側に連通して当該上端側を軸孔 120c の方に回動させた傾斜スリット部 127c とを備えている。

【0093】

図 9 に示すように、手前側のレール用圧入ピン 128 が傾斜スリット部 127c に位置し、奥側のレール用圧入ピン 128 が垂直スリット部 127b と水平スリット部 127a との交点に位置することで、スライド枠体 130 が表向き傾斜姿勢で保持されることから、表向き傾斜姿勢保持部 141 は、これらのレール用圧入ピン 128 と垂直スリット部 127b 及び傾斜スリット部 127c とで構成されている。

【0094】

なお、上述した本体 11 が本発明における筐体に相当し、上述した開口部 11a が本発明における開口に相当し、上述した前面扉 13 が本発明における扉に相当し、上述したリールユニット 25 が本発明における図柄変動表示手段に相当し、上述した主制御装置 70 が本発明における制御手段に相当し、上述した取付台 100 が本発明における変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段に相当し、上述したスライド枠体 130 が本発明における第 1 支持部、被取付体に相当し、上述した回動枠体 120 が本発明における第 2 支持部に相当し、上述した固定ベース 110 が本発明における第 3 支持部に相当し、上述した別封止部材 190 が本発明における封印手段、封止手段に相当し、上述した二重かしめピン 193 が本発明における係止部材に相当し、上述したピン挿入孔 136 が本発明における挿入部に相当し、上述した姿勢変更機構部 140 が本発明における姿勢変更手段に相当し、上述した表向き傾斜姿勢保持部 141 が本発明における表向き傾斜姿勢保持手段に相当し、上述した主制御基板 73 が本発明における制御基板に相当し、上述した基板ケース 74 が本発明における基板収容ケースに相当し、上述したケース上 71 が本発明における第 1 ケース体に相当し、上述したケース下 72 が本発明における第 2 ケース体に相当し、上述した封止部材 150 が本発明における封止手段に相当し、上述したケース係止部 170 が本発明における係止手段に相当し、上述した被係止穴 173 が本発明における被鉤状突起係止部に相当し、上述した延出部 135 が本発明における破壊部品落下防止手段に相当し、上述した延出部 135 及び支持用延出片 137 が本発明における載置部に相当する。

【0095】

ここで、実施例 1 の取付台 100 への主制御装置 70 の取り付け方法について説明する。

【0096】

図 10 に示すようにスライド枠体 130 を引き出した状態とし、図 5，図 8 に示すよう

に、主制御装置 70 のケース上 71 側を下面にして当該主制御装置 70 をスライド枠体 130 の上部からその両腕部 131, 131 の間に挿入するように載置する。図 10 に示すように、スライド枠体 130 は、その横長枠部 134 の延出部 135 と、その両腕部 131, 131 の支持用延出片 137 とが、主制御装置 70 の上端部分の少なくとも一部と、主制御装置 70 の両端部分とを支持する。

【0097】

そして、図 8 に示すように進出位置にあるスライド枠体 130 を、図 9 に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。

【0098】

図 9 に示すように表向き傾斜姿勢のスライド枠体 130 に対して、そのピン挿入孔 136 に二重かしめピン 193 を挿入して基板ケース 74 の別被封印部 192 に係止させるとともに、図 16 に示すように、スライド枠体 130 の右側の腕部 131 の貫通孔 138 を介して基板ケース 74 の挿入穴 71b にタッピンネジ 197 を螺入することで、主制御装置 70 をスライド枠体 130 にかしめ固定する。また、表向き傾斜姿勢の主制御装置 70 に対して、ケーブル（図示省略）の接続を行うので、接続作業がやり易い。

【0099】

そして、図 9 に示すようにスライド枠体 130 の裏面を表向けた姿勢状態から、図 8 に示すようにスライド枠体 130 の裏面を下向きに戻す。

【0100】

そして、図 8 に示すように進出位置にあるスライド枠体 130 を、図 7 に示すように収容位置にスライドさせる。

【0101】

そして、図 7 に示す水平姿勢の回動枠体 120 を、図 6 に示すように、起立姿勢にすると、回動枠体 120 の左側面部 122 及び右側面部 123 の係止爪 121 が固定ベース 110 の係止孔 116 に係止する。

【0102】

こうすることで、取付台 100 への主制御装置 70 の取り付けが完了する。

【0103】

次に、実施例 1 の取付台 100 に取り付けした主制御装置 70 の点検方法について説明する。

【0104】

図 6 に示す収納支持状態の取付台 100 に対して、回動枠体 120 の左側面部 122 及び右側面部 123 の係止爪 121 を内向き方向（主制御装置 70 の方に向ける）に押下して、係止爪 121 の固定ベース 110 の係止孔 116 への係止が解除された状態で、図 7 に示すように回動枠体 120 を水平姿勢にする。

【0105】

そして、図 7 に示すように収容位置のスライド枠体 130 を、図 8 に示すように進出位置にスライドさせる。図 5 に示すように、スライド枠体 130 を引き出した状態において、主制御装置 70 の裏面側を目視点検することができる。なおこの状態で、主制御装置 70 を下から見て、主制御装置 70 の前面側を目視確認してもよい。また、スライド枠体 130 は透明であるため、主制御装置 70 の天面や右側面や左側面も目視確認することができる。

【0106】

続いて、図 8 に示すように進出位置にあるスライド枠体 130 を、図 9 に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。図 9 に示すように、表向き傾斜姿勢とした主制御装置 70 の前面側を目視確認することができる。

【0107】

こうすることで、取付台 100 への主制御装置 70 の点検が完了する。

【0108】

なお、主制御装置 70 を元に戻す場合には、当該点検方法の逆の手順を行えばよい。つ

まり、表向き傾斜姿勢としたスライド枠体 130 を水平姿勢に戻して（図 8 参照）、スライド枠体 130 を進出位置から収容位置にスライドさせて（図 7 参照）、回動枠体 120 を水平姿勢から起立姿勢にする（図 6 参照）ことで、図 6 に示す収納支持状態に戻すことができる。

【0109】

次に、実施例 1 の取付台 100 に取り付けられた主制御装置 70 の取り外し方法について説明する。

【0110】

前述の点検方法で説明したように、図 6 に示す収納支持状態の取付台 100 から、図 9 に示すように、スライド枠体 130 を表向き傾斜姿勢にする。

【0111】

図 9 に示す表向き傾斜姿勢のスライド枠体 130 からタッピンネジ 197 を取り外す。

【0112】

次に、図 9 に示す表向き傾斜姿勢のスライド枠体 130 を、図 5，図 8 に示すように水平姿勢に戻す。図 18（a）に示すように、二重かしめピン 193 が挿入された別被封止部 192 の取付解除用被切断部 196 を切断（破壊）して、図 18（b）に示すように、この切断された別被封止部 192 を回転（90 度回転）させ、図 18（c）に示すように、切断された別被封止部 192 を取り外し、図 18（d）に示すように、二重かしめピン 193 をピン挿入孔 136 から拔出方向に抜き出す。

【0113】

なお、取付解除用被切断部 196 の破壊痕跡を見ることによって、「B」と表記された箇所の別被封止部 192 が破壊されたことがわかり、ホール関係者などはスロットマシンごとにかしめ履歴データを所有しており、対象スロットマシンのかしめ履歴データと実機のかしめ状態とを比較することでその破壊を自ら行ったものか、不正に行われたものかがわかる。

【0114】

上述したように、主制御装置 70 のスライド枠体 130 へのかしめ固定が解除されたので、スライド枠体 130 を図 8 に示す水平姿勢にして、主制御装置 70 をスライド枠体 130 から上方向に取り外す。なお、取り外された二重かしめピン 193 は、再使用することができる。

【0115】

こうすることで、取付台 100 からの主制御装置 70 の取り外しが完了する。

【0116】

上述したように、本実施例 1 のスロットマシン 10 によれば、前面側に開口部 11a を有する本体 11 と、この本体 11 の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部 11a を閉塞する前面扉 12 と、遊技に関する制御を行う主制御基板 73 を基板ケース 74 の内部に収容した主制御装置 70 と、この主制御装置 70 が取り付けられるスライド枠体 130 と、主制御装置 70 をスライド枠体 130 に取り外し不可に封印する別封止部材 190 と、主制御装置 70 を封印する封止部材 150 と、主制御装置 70 に設けられた、別封止部材 190 による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部 196 及び封止部材 150 による封印を解除するために破壊されるケース封止解除用被切断部 166 と、本体 11 の開口視で取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 が見えないように主制御装置 70 を本体 11 の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 を露出させるように主制御装置 70 を傾倒姿勢にして本体 11 の開口部 11a から引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する取付台 100 と、を備えている。

【0117】

したがって、取付台 100 による主制御装置 70 の隠蔽収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持されているので、本体 11 内部奥側の主制御装置 70 に対して不正行為をし難くできるだけでなく、たとえ本体 11 の前面扉

12を開けた状態としても本体11の開口視で取付解除用被切断部196及びケース封止解除用被切断部166が見えないので、取付解除用被切断部196及びケース封止解除用被切断部166に直接にアクセスすることができず、取付解除用被切断部196及びケース封止解除用被切断部166を不正に破壊することが困難であり、主制御装置70への不正行為がし辛く、主制御装置70に対する不正行為を低減できる。

【0118】

また、取付台100による主制御装置70の露出引出支持状態では、取付解除用被切断部196及びケース封止解除用被切断部166を露出させるように主制御装置70を傾倒姿勢にして本体11の開口から引き出した状態で支持するので、正当な作業（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）は、本体11内部の暗がりの中で主制御装置70を確認するのではなく、本体11から引き出した状態でしかも主制御装置70が視認可能であるので、主制御装置70の点検、封印及びその解除等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置70の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が本体11の前面扉12を開状態にして、主制御装置70を本体11の開口から引き出した状態（露出引出支持状態）で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、主制御装置70（例えば、制御装置）の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、主制御装置70に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0119】

また、取付解除用被切断部196は、主制御装置70の隠蔽収納支持状態において主制御装置70の裏面側上部箇所に設けられており、取付台100は、主制御装置70を支持するスライド枠体130と、このスライド枠体130が取り外し不可に連結されてスライド枠体130を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とにスライド枠体130を進退自在に支持する回動枠体120と、この回動枠体120が取り外し不可に連結されて回動枠体120を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに本体11の内部奥側箇所に固定される固定ベース110とを備えている。

【0120】

したがって、取付解除用被切断部196及びケース封止解除用被切断部166は、主制御装置70の露出引出支持状態において、手前側上面箇所に位置しており、この取付解除用被切断部196に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【0121】

また、別封止部材190が、主制御装置70をスライド枠体130に取り外し不可に封印するので、主制御装置70をスライド枠体130から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体130、回動枠体120及び固定ベース110が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体130、回動枠体120及び固定ベース110を取り外したりすることを低減できる。つまり、主制御装置70だけを取り外したり、主制御装置70をスライド枠体130及び回動枠体120ごとを取り外したりして主制御装置70に不正を施して戻したり、主制御装置70を取り外して別の不正な主制御装置70に交換したりすることを低減でき、主制御装置70への不正対策に優れる。

【0122】

また、スライド枠体130は、主制御装置70の露出引出支持状態において取付解除用被切断部196及びケース封止解除用被切断部166の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部135を備えているので、封印解除した際にその破壊部品の落下が防止され、本体11内部に破壊部品が紛れ込んで見失ってしまうことや、本体11内部に入った破壊部品で当該本体11内の部品等が損傷することも低減できる。

【0123】

また、前面側に開口部11aを有する本体11と、この本体11の前面側で開閉可能で

あって閉状態で開口部 1 1 a を閉塞する前面扉 1 2 と、複数の図柄を変動表示する、本体 1 1 の内部に設けられたリールユニット 2 5 と、遊技に関する制御を行う主制御装置 7 0 と、この主制御装置 7 0 を本体 1 1 の内部奥側で且つリールユニット 2 5 の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、主制御装置 7 0 をその前面及び裏面が視認可能に本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する取付台 1 0 0 と、を備えている。

【0124】

したがって、取付台 1 0 0 による主制御装置 7 0 の収納支持状態（図 6 参照）では、主制御装置 7 0 が本体 1 1 の内部奥側で且つリールユニット 2 5 の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置 7 0 が本体 1 1 の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット 2 5 の上方スペースを確保でき、リールユニット 2 5 の交換作業の邪魔にならない。

【0125】

また、取付台 1 0 0 による主制御装置 7 0 の引出支持状態（図 5 参照）では、主制御装置 7 0 をその前面及び裏面が視認可能に、本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した状態で支持するので、本体 1 1 の内部の暗がりの中で主制御装置 7 0 を確認するのではなく、本体 1 1 から引き出した状態でしかも主制御装置 7 0 の前面及び裏面が視認可能であるので、主制御装置 7 0 の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置 7 0 の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が前面扉 1 2 を開状態にして、主制御装置 7 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、リールユニット 2 5 の交換作業の邪魔にならず、主制御装置 7 0 の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、主制御装置 7 0 に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0126】

また、取付台 1 0 0 は、主制御装置 7 0 を支持するスライド枠体 1 3 0 と、このスライド枠体 1 3 0 が取り外し不可に連結されてスライド枠体 1 3 0 を収めた収容位置（図 7 参照）とこの収容位置から進出した進出位置（図 8 参照）とに当該スライド枠体 1 3 0 を進退自在に支持する回動枠体 1 2 0 と、この回動枠体 1 2 0 が取り外し不可に連結されて当該回動枠体 1 2 0 を起立姿勢（図 6 参照）と傾倒姿勢（図 7 参照）とに回動自在に支持するとともに本体 1 1 の内部奥側で且つリールユニット 2 5 の上方箇所に固定される固定ベース 1 1 0 とを備え、主制御装置 7 0 をスライド枠体 1 3 0 に取り外し不可に封印する別封止部材 1 9 0 を備えているので、別封止部材 1 9 0 によって主制御装置 7 0 がスライド枠体 1 3 0 に取り外し不可に封印されており、主制御装置 7 0 をスライド枠体 1 3 0 から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体 1 3 0、回動枠体 1 2 0 及び固定ベース 1 1 0 が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体 1 3 0、回動枠体 1 2 0 及び固定ベース 1 1 0 を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置 7 0 だけを取り外したり、主制御装置 7 0 を第 1、回動枠体 1 2 0 ごとを取り外したりして主制御装置 7 0 に不正を施して戻したり、主制御装置 7 0 を取り外して別の不正な主制御装置 7 0 に交換したりすることを低減でき、主制御装置 7 0 への不正対策に優れる。また、主制御装置 7 0 の引出支持状態を好適に実現することができる。

【0127】

また、回動枠体 1 2 0 は、固定ベース 1 1 0 に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、スライド枠体 1 3 0 を収容位置（図 7 参照）と進出位置（図 8 参照）とにスライド進退自在に支持するスライド支持部 1 2 5 と、このスライド枠体 1 3 0 をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該スライド枠体 1 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した水平状態で保持する水平保持部 1 2 6 とを備え、主制御装置 7 0 は、スライド枠体 1 3 0 の水平状態において別封止部材 1 9 0 による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部 1 9 6 を備え、スライド枠体 1 3 0 は、取付解除用被切断部 1 9 6

の破壊によって封印が解除された主制御装置 70 を支持するので、主制御装置 70 を支持するスライド枠体 130 を回動枠体 120 の収容位置にした状態で、この回動枠体 120 を起立姿勢とした収納支持状態から、この回動枠体 120 を固定ベース 110 に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、スライド枠体 130 を本体 11 の開口部 11a から引き出して水平状態で保持することができ、スライド枠体 130 の水平状態において取付解除用被切断部 196 の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、取付解除用被切断部 196 は、手前側に配設されているので作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、スライド枠体 130 の水平状態が水平保持部 126 によって保持されるので、下方のリールユニット 25 を保護することができる。

【0128】

また、前面側に開口部 11a を有する本体 11 と、この本体 11 の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部 11a を閉塞する前面扉 12 と、複数の図柄を変動表示する、本体 11 の内部に設けられたリールユニット 25 と、遊技に関する制御を行う主制御装置 70 と、主制御装置 70 を本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態（図 6 参照）と、主制御装置 70 をその前面及び裏面が視認可能に本体 11 の開口部 11a から引き出した状態で支持する引出支持状態（図 5 参照）とに変位する取付台 100 と、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 11a から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更機構部 140 と、を備えている。

【0129】

したがって、取付台 100 による主制御装置 70 の収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態（図 6 参照）では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット 25 の上方スペースを確保でき、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならない。

【0130】

また、取付台 100 による主制御装置 70 の引出支持状態（図 5 参照）では、主制御装置 70 をその前面及び裏面が視認可能に、本体 11 の開口部 11a から引き出した状態で支持するので、本体 11 の内部の暗がりの中で主制御装置 70 を確認するのではなく、本体 11 から引き出した状態で主制御装置 70 の前面が視認可能である。さらに、本体 11 から引き出した状態で主制御装置 70 をその裏面を表向けるように姿勢変更できるので、主制御装置 70 の前面及び裏面について作業（例えば、メーカー作業、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、主制御装置 70 の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置 70 の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が前面扉 12 を開状態にして、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 11a から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならず、主制御装置 70 の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、主制御装置 70 に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0131】

また、取付台 100 は、主制御装置 70 を支持するスライド枠体 130 と、このスライド枠体 130 が取り外し不可に連結されてスライド枠体 130 を収めた収容位置（図 7 参照）とこの収容位置から進出した進出位置（図 8 参照）とに当該スライド枠体 130 を進退自在に支持する回動枠体 120 と、この回動枠体 120 が取り外し不可に連結されて当該回動枠体 120 を起立姿勢（図 6 参照）と傾倒姿勢（図 7 参照）とに回動自在に支持するとともに本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に固定される固定ベース 110 とを備え、主制御装置 70 をスライド枠体 130 に取り外し不可に封印する別封止部材 190 を備え、姿勢変更機構部 140 は、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 1

1 a から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図 9 参照）で保持する表向き傾斜姿勢保持部 1 4 1 を備えているので、別封止部材 1 9 0 によって主制御装置 7 0 がスライド枠体 1 3 0 に取り外し不可に封印されているので、主制御装置 7 0 をスライド枠体 1 3 0 から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体 1 3 0、回動枠体 1 2 0 及び固定ベース 1 1 0 が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体 1 3 0、回動枠体 1 2 0 及び固定ベース 1 1 0 を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置 7 0 だけを取り外したり、主制御装置 7 0 を第 1、回動枠体 1 2 0 ごとを取り外したりして主制御装置 7 0 に不正を施して戻したり、主制御装置 7 0 を取り外して別の不正な主制御装置 7 0 に交換したりすることを低減でき、主制御装置 7 0 への不正対策に優れる。

【0132】

また、表向き傾斜姿勢保持部 1 4 1 は、主制御装置 7 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図 9 参照）で保持するので、作業（例えば、メーカー作業、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された主制御装置 7 0 の裏面に正対してこの主制御装置 7 0 の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【0133】

特に、スライド枠体 1 3 0 と第 2 支持部との連結構造としては、スライド枠体 1 3 0 の腕部 1 3 1 の先端側に近い側の箇所であって両外側からレール用圧入ピン 1 2 8 を圧入してスライド枠体 1 3 0 を回動枠体 1 2 0 に対して進退自在に固定しているので、本体 1 1 の側面視で上記連結箇所が当該本体 1 1 の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、スライド枠体 1 3 0、回動枠体 1 2 0 及び固定ベース 1 1 0 ごとに取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができるため、不正抑止効果がある。

【0134】

また、回動枠体 1 2 0 は、固定ベース 1 1 0 に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、スライド枠体 1 3 0 を収容位置（図 7 参照）と進出位置（図 8 参照）とにスライド進退自在に支持するスライド支持部 1 2 5 と、スライド枠体 1 3 0 をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該スライド枠体 1 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した水平状態で保持する水平保持部 1 2 6 と、この水平保持部 1 2 6 で水平状態で保持されたスライド枠体 1 3 0 をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図 9 参照）で保持する表向き傾斜姿勢保持部 1 4 1 と、を備えているので、主制御装置 7 0 を支持するスライド枠体 1 3 0 を回動枠体 1 2 0 の収容位置にした状態で、この回動枠体 1 2 0 を起立姿勢とした収納支持状態（図 6 参照）から、この回動枠体 1 2 0 を固定ベース 1 1 0 に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、スライド枠体 1 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出して水平状態（図 5 参照）で保持することができ、主制御装置 7 0 の前面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置 7 0 の前面への不正な基板の取り付けが発見し易い。また、水平保持部 1 2 6 で水平状態で保持されたスライド枠体 1 3 0 をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（図 9 参照）で保持するので、主制御装置 7 0 の裏面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置 7 0 の裏面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【0135】

また、スライド枠体 1 3 0 と回動枠体 1 2 0 とが透明な樹脂成型品であるので、スライド枠体 1 3 0 や回動枠体 1 2 0 の裏側も透けて見え、例えば、スライド枠体 1 3 0 と主制御装置 7 0 との間に配設された不正な部品などを目視発見するでき、スライド枠体 1 3 0 と主制御装置 7 0 との間や、スライド枠体 1 3 0 や回動枠体 1 2 0 の裏側に、不正な部品などを配設することが低減でき、主制御装置 7 0 への不正対策に優れる。

【0136】

また、主制御装置 7 0 は、遊技に関する所定の制御を司る主制御基板 7 3 と、この主制御基板 7 3 を内部に収容する基板ケース 7 4 とを備え、別封止部材 1 9 0 は、基板ケース

74から主制御基板73の取り出しを抑止するものであり、さらに、別封止部材190は、二重かしめピン193が挿入される、スライド枠体130に形成されたピン挿入孔136と、このピン挿入孔136に挿入された二重かしめピン193が挿入されて引き抜き不可に係止する、基板ケース74に形成された別被封止部192とを備え、この別被封止部192は、基板ケース74から主制御基板73の取り出しの抑止を解除するべく破壊される取付解除用被切断部196を備えているので、取付解除用被切断部196を破壊することで、基板ケース74から主制御基板73を取り出し可能とすることができ、取付解除用被切断部196の破壊痕を見ることで、基板ケース74が開封されたことがわかる。

【0137】

また、基板ケース74は、主制御基板73が取り付けられるケース上71と、このケース上71でのその主制御基板73取付面側に合わされるケース下72とを備え、ケース上71とケース下72とを合わせた状態でケース上71またはケース下72の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることでケース上71とケース下72とに係止するケース係止部170を備え、別封止部材190は、ケース係止部170によって係止状態とされたケース上71及びケース下72を開封不可に封止するので、別封止部材190によってケース上71及びケース下72が開封不可に封止でき、遊技機用基板ケース74が不正に開封されることを低減できる。また、この封止状態では、ケース係止部170によってケース上71及びケース下72がスライド係止されており、ケース上71及びケース下72をスライド方向に直交する対向方向に開けることができず、基板ケース74が不正に開封されることを低減できる。

【0138】

また、前面側に開口部11aを有する本体11と、この本体11の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部11aを閉塞する前面扉12と、複数の図柄を変動表示する、本体11の内部に設けられたリールユニット25と、本体11の内部で且つリールユニット25の上方箇所に収納される、遊技に関する制御を行う主制御装置70と、本体11の内部奥側で且つリールユニット25の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（図3，図6参照）と、スライド枠体130の先端側部分がリールユニット25よりも前側に位置するように本体11の開口部11aから引き出された引出状態（図5，図8参照）とに変位する取付台100と、を備えているので、取付台100の収納状態では、本体11の内部奥側で且つリールユニット25の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット25の上方スペースを確保でき、リールユニット25の交換作業の邪魔にならない。

【0139】

また、取付台100の引出状態では、その少なくとも一部がリールユニット25よりも前側に位置するように本体11の開口部11a側に引き出された状態となっているので、装着の際に誤って主制御装置70を落下させたとしても、主制御装置70が引出状態の取付台100に当るだけで、この引出状態の取付台100の下方のリールユニット25に当たらないので、リールユニット25が損傷することが低減でき、リールユニット25を保護することができる。

【0140】

その結果、主制御装置70の誤落下によるリールユニット25の損傷を低減でき、リールユニット25の交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することができる。

【0141】

また、取付台100による引出支持状態のスライド枠体130の正面視で左側部分の一部が開状態の前面扉12の内側右辺箇所（開閉軸J1に近い辺の一部箇所）に当接することで、前面扉12を開状態に維持するので、作業者は前面扉12を開状態に維持するようにしておく必要がなく、主制御装置70の着脱作業に集中できる。また、主制御装置70の着脱作業中に前面扉12が勢いよく閉まろうとして部品や装置が損傷することを低減できる。

【0142】

また、前面側に開口部 11a を有する本体 11 と、この本体 11 の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部 11a を閉塞する前面扉 12 と、複数の図柄を変動表示する、本体 11 内部に設けられたリールユニット 25 と、遊技に関する制御を行う主制御装置 70 と、この主制御装置 70 が取り付けられるスライド枠体 130 と、主制御装置 70 を本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納するようにスライド枠体 130 を支持する収納支持状態と、スライド枠体 130 の少なくとも一部がリールユニット 25 よりも前側に位置するように当該スライド枠体 130 を本体 11 の開口部 11a 側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する取付台 100 と、を備え、スライド枠体 130 は、引出支持状態において主制御装置 70 が載置される延出部 135 及び支持用延出片 137 を備えているので、取付台 100 によるスライド枠体 130 の収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット 25 の上方スペースを確保でき、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならない。

【0143】

また、取付台 100 によるスライド枠体 130 の引出支持状態では、スライド枠体 130 の先端側がリールユニット 25 よりも前側に位置するように当該スライド枠体 130 を本体 11 の開口部 11a 側に引き出された状態となっており、主制御装置 70 は、この引出支持状態のスライド枠体 130 の延出部 135 及び支持用延出片 137 に載置されて取り付けられるので、主制御装置 70 のスライド枠体 130 への装着がし易い。また、装着の際に誤って主制御装置 70 を落下させたとしても、主制御装置 70 が引出支持状態のスライド枠体 130 に当るだけで、この引出支持状態のスライド枠体 130 の下方のリールユニット 25 に当たらないので、リールユニット 25 が損傷することが低減でき、リールユニット 25 を保護することができる。また、取付台 100 及びこの取付台 100 による引出支持状態のスライド枠体 130 を、リールユニット 25 を保護する機構として使用することができるし、主制御装置 70 の落下防止機構としても使用することができる。

【0144】

また、主制御装置 70 を取り付ける際には、引き出されて水平姿勢のスライド枠体 130 の延出部 135 及び支持用延出片 137 に上方から主制御装置 70 を載置して取り付け、主制御装置 70 を取り外す際には、引き出されて水平姿勢のスライド枠体 130 の延出部 135 及び支持用延出片 137 の上方に主制御装置 70 を引き上げて取り外すので、主制御装置 70 をリールユニット 25 に接触させることがなく、当該リールユニット 25 を損傷させることが防止できる。

【0145】

また、本体 11 内部の暗がりの中で主制御装置 70 を確認するのではなく、取付台 100 によって本体 11 から引き出した引出支持状態で主制御装置 70 を視認できるので、主制御装置 70 の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置 70 の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、主制御装置 70 を本体 11 の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【0146】

その結果、主制御装置 70 の誤落下や接触によるリールユニット 25 の損傷を低減でき、リールユニット 25 の交換作業を容易に行うことができ、且つ、主制御装置 70 に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0147】

また、取付台 100 による引出支持状態のスライド枠体 130 は、主制御装置 70 が延出部 135 及び支持用延出片 137 から持ち上げて取り外され、主制御装置 70 が延出部 135 及び支持用延出片 137 に載置して取り付けられるので、主制御装置 70 の着脱の

際に、リールユニット２５に当ることが低減できる。

【０１４８】

また、延出部１３５及び支持用延出片１３７は、引出支持状態のスライド枠体１３０の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置７０の下面側での両端部分と手前端部分を支持する透明支持部であるので、主制御装置７０での当該延出部１３５及び支持用延出片１３７と対向する部分も目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。

【実施例２】

【０１４９】

次に、実施例２のスロットマシン１０の基板ケース７４について図２２～図３０を用いて説明する。

【０１５０】

図２２は、前面扉１２を取り外した状態での実施例２のスロットマシン１０の内部を示す図である。図２３は、前面扉１２を空けて主制御装置７０を引き出した状態の実施例２のスロットマシン１０の斜視図である。図２４は、主制御装置７０が収納支持状態である実施例２の取付台２００を示す斜視図である。図２５は、支持枠体２３０を水平姿勢に傾倒した状態の取付台２００を示す斜視図である。図２６は、取付台２００でのリンク枠体２２０が伸張途中である様子を示す斜視図である。図２７は、図２６の側面図である。図２８は、取付台２００のリンク枠体２２０を伸張状態として主制御装置７０を引き出した状態の斜視図である。図２９は、引き出した支持枠体２３０の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の取付台２００を示す斜視図である。図３０は、固定ベース２１０とリンク枠体２２０と支持枠体２３０との連結を示す斜視図である。

【０１５１】

実施例２の取付台２００は、図２４に示す起立姿勢で折り畳み状態のリンク枠体２２０を、図２６に示す傾倒姿勢に変化させるに伴って伸張状態となることで主制御装置７０が図２８に示すように引き出される構成としている点が、前述の実施例１の取付台１００と異なっている。よって、前述の実施例１と異なる構成について以下に詳細に説明することとし、実施例１と同様の構成についてはここでの説明を省略する。

【０１５２】

取付台２００は、図２８に示すように、金属製の固定ベース２１０と、透明樹脂成型品であるリンク枠体２２０及び支持枠体２３０とを備えている。

【０１５３】

固定ベース２１０は、図２２，図２３に示すように、本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に固定されている。なお、この固定ベース２１０は、前述の実施例１と同様に本体１１にネジ止めされている。

【０１５４】

この固定ベース２１０は、図３０に示すように、リンク枠体２２０が取り外し不可に連結されており、リンク枠体２２０を折り畳み状態での起立姿勢（図２４参照）と当該リンク枠体２２０を伸張状態とした傾倒姿勢（図２８参照）とに回動自在に支持するものである。

【０１５５】

ここで、固定ベース２１０の構成について、図３１～図３５も用いて説明する。

【０１５６】

図３１（ａ），（ｂ）は、固定ベース２１０の前方斜視図，後方斜視図である。図３２は、固定ベース２１０とリンク枠体２２０との連結を示す斜視図である。図３３（ａ）は、固定ベース２１０にリンク枠体２２０のみが起立姿勢で係止された状態の平面図、図３３（ｂ）は（ａ）に示すＢ－Ｂ線断面図である。図３４（ａ）は、固定ベース２１０と起立姿勢のリンク枠体２２０との縦断面図、図３４（ｂ）は、固定ベース２１０と傾倒姿勢のリンク枠体２２０との縦断面図である。図３５（ａ），（ｂ）は、図３４（ａ），（ｂ）の断面箇所の拡大斜視図、図３５（ｃ）は、図２４の取付台２００の右端側の縦断面図

、図 3 5 (d) は、図 2 8 の取付台 2 0 0 の右端側の縦断面図、図 3 5 (e) , (f) は、図 3 5 (c) , (d) の断面箇所拡大斜視図である。

【 0 1 5 7 】

具体的には、固定ベース 2 1 0 は、図 3 1 (a) に示すように、その正面視下辺側に、前方方向に突出させるように折り曲げた水平突出部 2 1 2 を備えている。この水平突出部 2 1 2 は、その両端側がそれぞれに上方向に折り曲げられた一对の支持片部 2 1 3 , 2 1 3 を備えるとともに、この一对の支持片部 2 1 3 , 2 1 3 の前方側箇所に水平方向に貫通した挿入孔 2 1 4 が形成されている。

【 0 1 5 8 】

固定ベース 2 1 0 は、図 3 2 及び図 3 3 に示すように、その右下箇所において、リンク枠体 2 2 0 の第 2 腕部材 2 2 2 の右側下部箇所に設けられた固定大歯車 2 1 1 の中心孔 2 1 1 a と、リンク枠体 2 2 0 の第 2 腕部材 2 2 2 の右側下部箇所に形成された入口孔 2 2 2 a と、ワッシャー 2 2 2 b (座金) と、固定ベース 2 1 0 の右側の支持片部 2 1 3 の先端側の挿入孔 2 1 4 と、入口孔 2 2 2 a と同一軸心で間隔を空けて近設された軸孔 2 2 2 c とに、その順にベース用圧入ピン 2 1 5 を挿入した状態で、当該ベース用圧入ピン 2 1 5 を第 2 腕部材 2 2 2 の右側の軸孔 2 2 2 c に圧入するとともに、その左下箇所において、リンク枠体 2 2 0 の第 2 腕部材 2 2 2 の左側下部箇所に形成された入口孔 2 2 2 a と、ワッシャー 2 2 2 b (座金) と、固定ベース 2 1 0 の左側の支持片部 2 1 3 の先端側の挿入孔 2 1 4 と、入口孔 2 2 2 a と同一軸心で間隔を空けて近設された軸孔 2 2 2 c とに、その順にベース用圧入ピン 2 1 5 A を挿入した状態で、当該ベース用圧入ピン 2 1 5 A を第 2 腕部材 2 2 2 の左側の軸孔 2 2 2 c に圧入することで、これらのベース用圧入ピン 2 1 5 , 2 1 5 A が抜けなくなり、リンク枠体 2 2 0 が回動可能で取り外し不可に連結されている。図 3 3 (b) に示すように、ベース用圧入ピン 2 1 5 , 2 1 5 A は、圧入されることで、固定ベース 2 1 0 の支持片部 2 1 3 の挿入孔 2 1 4 に対して遊嵌状態であり、リンク枠体 2 2 0 の軸孔 2 2 2 c よりも僅かに径の大きいベース用圧入ピン 2 1 5 , 2 1 5 A が強引に入れられて密着状態となっている。

【 0 1 5 9 】

固定大歯車 2 1 1 は、図 3 3 に示すように、第 2 腕部材 2 2 2 との対向面側で中心孔 2 1 1 a の外周箇所に軸突起部 2 1 1 b が形成されており、この軸突起部 2 1 1 b が第 2 腕部材 2 2 2 の右側下部箇所の入口孔 2 2 2 a に挿入されているものの、図 2 4 に示すように、その外面箇所 (第 2 腕部材 2 2 2 との対向面とは反対側の面) と固定ベース 2 1 0 とが L 字状の固定棒体 2 1 1 c で繋がれているため、固定ベース 2 1 0 に対して非回転で固定されている。例えば、図 2 4 に示すように、固定大歯車 2 1 1 の外面での回転軸 (中心孔 2 1 1 a の中心軸) からずれた偏心箇所に、取付穴 2 1 1 d が形成されており、この取付穴 2 1 1 d に固定棒体 2 1 1 c の短棒部の先端が嵌入され (接着等してもよい) 、固定棒体 2 1 1 c の長棒部の先端を固定ベース 2 1 0 に溶接 (接着等してもよい) して固定されている。

【 0 1 6 0 】

なお、図 2 4 に示した固定棒体 2 1 1 c は、本実施例 2 での他の図面においてその図示を省略している。

【 0 1 6 1 】

また、固定ベース 2 1 0 は、図 2 5 に示すように、その左側上部箇所と右側上部箇所とに、係止孔 2 1 6 が形成されている。

【 0 1 6 2 】

次に、リンク枠体 2 2 0 は、図 2 8 に示すように、支持枠体 2 3 0 が取り外し不可に連結されており、樹脂成型品 (本実施例では、透明樹脂成型品) である。

【 0 1 6 3 】

また、リンク枠体 2 2 0 は、支持枠体 2 3 0 を収めた収容位置 (図 2 4 参照) と、この収容位置から回動した回動位置 (図 2 5 参照) とに当該支持枠体 2 3 0 を回動自在に支持するものであって、起立姿勢で折り畳み状態 (図 2 4 , 図 2 5 参照) となり、水平な傾倒

姿勢で伸張状態（図 28 参照）となる。

【0164】

具体的には、リンク枠体 220 は、図 26，図 30 に示すように、支持枠体 230 が取り外し不可で当該支持枠体 230 が回動自在に連結された第 1 回動連結部 250 を先端側に備えた第 1 腕部材 221 と、この第 1 腕部材 221 の後端側に取り外し不可で当該第 1 腕部材 221 が回動自在に連結された第 2 回動連結部 260 を先端側に備えた、図 30 の水平姿勢で平面視でコノ字状の第 2 腕部材 222 とを備え、この第 2 腕部材 222 の後端側が固定ベース 210 に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とを折り畳んで重なるようにした起立姿勢（図 25 参照）から、図 26 及び図 27 に示す中間状態（側面視で逆 V ノ字状態）を経て、第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とを伸張した水平姿勢（図 28 参照）となる。

【0165】

また、リンク枠体 220 は、図 32 に示すように、その第 2 腕部材 222 の基端側で幅長さに亘る底面部 224 の上面側で、且つ、回動軸 222d の近接箇所、回動軸 222d の方が一段下がった段差部 224a を備えている。この段差部 224a は、図 34 及び図 35 に示すように、リンク枠体 220 を伸張した水平姿勢（図 28 参照）とした場合に、固定ベース 210 の水平突出部 212 の折り曲げ部 212a に当接し、リンク枠体 220 を水平姿勢（図 28 参照）で支持するための構成である。

【0166】

リンク枠体 220 の第 2 腕部材 222 は、図 30 に示すように、その右側面で基端側箇所に、非回転の固定大歯車 211 に噛み合う第 1 小歯車 226 が回動可能に取り付けられている。具体的には、第 1 小歯車 226 の回動中心の中心孔 226a と、第 2 腕部材 222 の挿入孔 222e とに、第 1 圧入ピン 226b を挿入した状態で当該第 1 圧入ピン 226b を第 2 腕部材 222 の挿入孔 222e に圧入する（第 1 圧入ピン 226b は、第 1 小歯車 226 の中心孔 226a に対して遊嵌状態であり、第 2 腕部材 222 の挿入孔 222e よりも僅かに径の大きい第 1 圧入ピン 226b が強引に入れられて密着状態となっている）ことで、この第 1 圧入ピン 226b が第 2 腕部材 222 から抜けなくなり、第 1 小歯車 226 が回動可能で第 2 腕部材 222 から取り外し不可に取り付けられている。

【0167】

第 2 腕部材 222 は、図 30 に示すように、その先端側箇所に、第 2 小歯車 227 が回動可能に取り付けられている。具体的には、第 2 小歯車 227 の回動中心の中心孔 227a と、第 2 腕部材 222 の挿入孔 222f とに、第 2 圧入ピン 227b を挿入した状態で当該第 2 圧入ピン 227b を第 2 腕部材 222 の挿入孔 222f に圧入する（第 2 圧入ピン 227b は、第 2 小歯車 227 の中心孔 227a に対して遊嵌状態であり、第 2 腕部材 222 の挿入孔 222f よりも僅かに径の大きい第 2 圧入ピン 227b が強引に入れられて密着状態となっている）ことで、この第 2 圧入ピン 227b が第 2 腕部材 222 の挿入孔 222f から抜けなくなり、第 2 小歯車 227 が回動可能で第 2 腕部材 222 から取り外し不可に取り付けられている。

【0168】

また、第 1 小歯車 226 は、図 30 に示すように、その前面側で中心軸（中心孔 226a の中心軸）からずれた偏心箇所に、棒状のリンクシャフト 228 の基端側の突起部 228a が嵌入される取り付け穴 226c が形成されている。また、第 2 小歯車 227 は、その前面側で中心軸からずれた偏心箇所に、棒状のリンクシャフト 228 の先端側の突起部 228b が嵌入される取り付け穴 227c が形成されている。

【0169】

リンクシャフト 228 は、図 30 に示すように、その基端側（固定ベース 210 に近い側）で第 2 腕部材 222 と対向する面側箇所に、第 1 小歯車 226 の取り付け穴 226c に嵌入する突起部 228a が形成されており、且つ、その先端側（固定ベース 210 から遠い側）で第 2 腕部材 222 と対向する面側箇所に、第 2 小歯車 227 の取り付け穴 227c に嵌入する突起部 228b が形成されている。

【 0 1 7 0 】

リンクシャフト 2 2 8 は、図 3 0 に示すように、その基端側の突起部 2 2 8 a を第 1 小歯車 2 2 6 の取り付け穴 2 2 6 c に嵌入するとともに、その先端側の突起部 2 2 8 b を第 2 小歯車 2 2 7 の取り付け穴 2 2 7 c に嵌入することで、第 1 小歯車 2 2 6 及び第 2 小歯車 2 2 7 に取り付けられている。

【 0 1 7 1 】

リンク枠体 2 2 0 の第 2 腕部材 2 2 2 は、図 3 0 に示すように、その右側の先端側箇所、第 2 小歯車 2 2 7 に噛み合う第 3 小歯車 2 2 9 が回動可能に取り付けられるとともに、右側の第 1 腕部材 2 2 1 が回動自在に連結する第 2 回動連結部 2 6 0 を備えている。

【 0 1 7 2 】

ここで、第 2 回動連結部 2 6 0 の構成について、図 3 6 も用いて説明する。図 3 6 (a) は、リンク枠体 2 2 0 の第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 との連結状態を示す部分斜視図、図 3 6 (b) は第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 との分解斜視図、図 3 6 (c) は第 2 小歯車 2 2 7 と第 3 小歯車 2 2 9 とを示す斜視図である。

【 0 1 7 3 】

具体的には、第 2 腕部材 2 2 2 の右側先端箇所の第 2 回動連結部 2 6 0 は、図 3 0 及び図 3 6 に示すように、第 2 腕部材 2 2 2 の右側先端側箇所に形成された取付孔 2 2 2 g に第 3 小歯車 2 2 9 の挿入突出部 2 2 9 a が遊嵌された状態での当該第 3 小歯車 2 2 9 の回動中心の中心孔 2 2 9 b と、第 1 腕部材 2 2 1 の後端側箇所に形成された挿入孔 2 2 1 a とに、その順で第 3 圧入ピン 2 2 9 c を挿入した状態で当該第 3 圧入ピン 2 2 9 c を圧入する（第 3 圧入ピン 2 2 9 c は、第 3 小歯車 2 2 9 の中心孔 2 2 9 b に対して遊嵌状態であり、第 1 腕部材 2 2 1 の挿入孔 2 2 1 a よりも僅かに径の大きい第 3 圧入ピン 2 2 9 c が強引に入れられて密着状態となっている）とともに、図 3 6 に示すように第 1 腕部材 2 2 1 の挿入孔 2 2 1 a の近傍箇所に形成された四角形突起部 2 2 1 b での隣接二面（挿入孔 2 2 1 a に近い隣接二面）に、第 3 小歯車 2 2 9 の挿入突出部 2 2 9 a の挿入方向視で L 字状に切り欠かれた L 字切り欠き部 2 2 9 d の隣接二内面（第 3 小歯車 2 2 9 の挿入方向に平行な隣接する二内面）を合わせるようにして第 3 小歯車 2 2 9 が第 2 腕部材 2 2 2 の取付孔 2 2 2 g に挿入されることで構成されている。

【 0 1 7 4 】

このようにして、第 3 圧入ピン 2 2 9 c が第 1 腕部材 2 2 1 の挿入孔 2 2 1 a から抜けなくなり、第 1 腕部材 2 2 1 が第 2 腕部材 2 2 2 に対して取り外し不可に取り付けられている。また、第 1 腕部材 2 2 1 が例えば起立姿勢（図 2 5 参照）から水平姿勢（図 2 8 参照）に変移することで第 3 小歯車 2 2 9 が回転（右面視で時計回りに回転）し、この回転によって第 2 小歯車 2 2 7 が反転（右面視で反時計回りに回転）し、第 2 小歯車 2 2 7 の回転がリンクシャフト 2 2 8 を通じて図 2 7 に示すように第 1 小歯車 2 2 6 も反転（右面視で反時計回りに回転）しながら当該第 1 小歯車 2 2 6 が固定大歯車 2 1 1 の外周を反時計回りに移動する。

【 0 1 7 5 】

なお、リンク枠体 2 2 0 の第 2 腕部材 2 2 2 は、図 3 0 に示すように、その左側の先端側箇所の挿入孔 2 2 2 h を介して第 1 腕部材 2 2 1 のかしめ穴 2 2 1 c にリンク用圧入ピン 2 2 1 d を圧入することで、左側の第 1 腕部材 2 2 1 が回動自在に連結されている。

【 0 1 7 6 】

さらに、リンク枠体 2 2 0 の第 1 腕部材 2 2 1 は、図 3 0 に示すように、その先端側箇所に、支持枠体 2 3 0 が回動自在に連結する第 1 回動連結部 2 5 0 を備えている。

【 0 1 7 7 】

具体的には、第 1 腕部材 2 2 1 の先端側の第 1 回動連結部 2 5 0 は、図 3 0 に示すように、第 1 腕部材 2 2 1 の先端側箇所に形成された貫通孔 2 2 1 e と、支持枠体 2 3 0 の後端側箇所に形成されたかしめ穴 2 3 2 とに、ヒンジ用圧入ピン 2 5 1 を挿入した状態で当該ヒンジ用圧入ピン 2 5 1 を圧入する（ヒンジ用圧入ピン 2 5 1 は、第 1 腕部材 2 2 1 の貫通孔 2 2 1 e に対して遊嵌状態であり、支持枠体 2 3 0 のかしめ穴 2 3 2 よりも僅かに

径の大きいヒンジ用圧入ピン 2 5 1 が強引に入れられて密着状態となっている) ことで、このヒンジ用圧入ピン 2 5 1 が支持枠体 2 3 0 のかしめ穴 2 3 2 から抜けなくなり、支持枠体 2 3 0 が回動可能であり、支持枠体 2 3 0 が第 1 腕部材 2 2 1 に対して取り外し不可に取り付けられている。

【 0 1 7 8 】

支持枠体 2 3 0 は、図 2 8 に示すように、主制御装置 7 0 を支持するものであり、前述したように起立姿勢のリンク枠体 2 2 0 の収容位置 (図 2 4 参照) から回動して水平姿勢 (図 2 5 参照) となる。

【 0 1 7 9 】

また、支持枠体 2 3 0 は、図 2 5 に示すように、その左側腕部 2 3 1 A の基端側と右側腕部 2 3 1 B の基端側とに係止爪 2 3 9 がそれぞれ形成されている。図 2 4 に示すように、支持枠体 2 3 0 を、水平姿勢 (図 2 5 参照) から起立姿勢 (図 2 4 参照) とすることで、この支持枠体 2 3 0 の左側腕部 2 3 1 A 及び右側腕部 2 3 1 B の係止爪 2 3 9 が、固定ベース 2 1 0 の左側上部箇所と右側上部箇所との係止孔 2 1 6 にそれぞれ挿入されて係止されるので、支持枠体 2 3 0 及びリンク枠体 2 2 0 が起立姿勢状態 (図 2 4 参照) で固定ベース 2 1 0 に保持される。

【 0 1 8 0 】

この取付台 2 0 0 は、図 3 0 に示すように、第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 とを伸張した水平姿勢にして支持枠体 2 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した水平状態で保持する水平保持部 2 2 5 を備えている。

【 0 1 8 1 】

ここで、水平保持部 2 2 5 の構成について、図 3 7 ~ 図 3 9 も用いて説明する。図 3 7 は、支持枠体 2 3 0 と第 1 腕部材 2 2 1 との連結箇所を示す分解斜視図である。図 3 8 は、支持枠体 2 3 0 と第 1 腕部材 2 2 1 との連結箇所を示す部分斜視図である。図 3 9 は、主制御装置 7 0 が装着されて水平姿勢の支持枠体 2 3 0 と第 1 腕部材 2 2 1 との連結箇所を示す部分斜視図である。

【 0 1 8 2 】

具体的には、この水平保持部 2 2 5 は、図 3 4 , 図 3 5 に示すように、リンク枠体 2 2 0 の第 2 腕部材 2 2 2 の底面部 2 2 4 の段差部 2 2 4 a が固定ベース 2 1 0 の水平突出部 2 1 2 の折り曲げ部 2 1 2 a に当接することで、第 2 腕部材 2 2 2 が水平姿勢に抑止されており、この水平姿勢からさらに下向き傾斜する方向に第 1 小歯車 2 2 6 、第 2 小歯車 2 2 7 及び第 3 小歯車 2 2 9 が回転できないことから、第 1 腕部材 2 2 1 を水平姿勢に保持するものであるとともに、図 3 7 及び図 3 8 に示すように、支持枠体 2 3 0 の後端側に形成された円弧状の切欠孔 2 3 8 と、支持ピン 2 4 2 と、この支持ピン 2 4 2 のピン側に挿入されるバネ 2 4 3 と、第 1 腕部材 2 2 1 の先端側で支持枠体 2 3 0 と対向する側に形成された、支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a 及びバネ 2 4 3 が収納可能な収納穴 2 4 4 と、この収納穴 2 4 4 の開口中心と同一開口中心で連通形成されて支持ピン 2 4 2 のピン先が挿入可能で収納穴 2 4 4 よりも径の小さいピン挿入孔 2 4 5 と、第 1 腕部材 2 2 1 の先端側で支持枠体 2 3 0 と対向する側とは反対側に配設されて、支持ピン 2 4 2 のピン先が圧入される車輪 2 4 6 と、を備え、図 3 8 及び図 3 9 に示すように、バネ 2 4 3 により支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a が切欠孔 2 3 8 内で当該切欠孔 2 3 8 の手前側端部に位置することで、支持枠体 2 3 0 を水平姿勢に保持するものである。

【 0 1 8 3 】

また、取付台 2 0 0 は、図 2 2 , 図 2 4 に示すように、本体 1 1 の開口視で取付解除用被切断部 1 9 6 が見えないように主制御装置 7 0 を本体 1 1 の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態 (前述した収納支持状態) と、図 2 3 , 図 2 8 に示すように、取付解除用被切断部 1 9 6 を露出させるように主制御装置 7 0 を傾倒姿勢 (水平姿勢) にして本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した状態で支持する露出引出支持状態 (前述した引出支持状態) とに変位するものであるとも言える。また、図 2 2 , 図 2 4 に示す隠蔽収納支持状態では、ケース封止解除用被切断部 1 6 6 が見えないし、図 2 3 , 図 2 8 に

示す露出引出支持状態では、ケース封止解除用被切断部 1 6 6 が露出している。

【 0 1 8 4 】

また、支持枠体 2 3 0 は、主制御装置 7 0 の露出引出支持状態（図 2 8 参照）において取付解除用被切断部 1 9 6 及びケース解除用被切断部 1 6 6 の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部 2 3 5（図 2 9 参照）を備えている。

【 0 1 8 5 】

また、取付台 2 0 0 は、図 2 2，図 2 4 に示すように、本体 1 1 の内部奥側で且つリールユニット 2 5 の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（前述した収納支持状態）と、図 2 3，図 2 8 に示すように、支持枠体 2 3 0 の先端側部分がリールユニット 2 5 よりも前側に位置するように本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出された引出状態（前述した引出支持状態）とに変位して、引出状態においてリールユニット 2 5 を保護するものであるとも言える。

【 0 1 8 6 】

具体的には、主制御装置 7 0 が支持枠体 2 3 0 に取り付けられ、取付台 2 0 0 は、図 2 2，図 2 4 に示すように、主制御装置 7 0 を本体 1 1 の内部奥側で且つリールユニット 2 5 の上方箇所に起立姿勢で収納するように支持枠体 2 3 0 を支持する収納支持状態と、図 2 3，図 2 8 に示すように、支持枠体 2 3 0 の先端側部分がリールユニット 2 5 よりも前側に位置するように支持枠体 2 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出して支持する引出支持状態とに変位して、引出状態においてリールユニット 2 5 を保護するものである。

【 0 1 8 7 】

また、支持枠体 2 3 0 は、図 1 0 に示すように、引出支持状態において主制御装置 7 0 が載置される前述した延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 を備えている。延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 は、図 1 0 に示すように、引出支持状態の支持枠体 2 3 0 の下部側に形成されており、水平姿勢の主制御装置 7 0 の下面側での両端部分と手前端部分とを支持する透明支持部である。

【 0 1 8 8 】

また、取付台 2 0 0 による引出支持状態の支持枠体 2 3 0（図 2 3 参照）は、主制御装置 7 0 が延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 から持ち上げて取り外され、主制御装置 7 0 が延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 に載置して取り付けられる。

【 0 1 8 9 】

さらに、取付台 2 0 0 は、図 2 9，図 3 0 に示すように、主制御装置 7 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した引出支持状態（図 2 8 参照）でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更機構部 2 4 0 を備えている。

【 0 1 9 0 】

ここで、姿勢変更機構部 2 4 0 の構成について、図 4 0 及び図 4 1 も用いて説明する。図 4 0 は、主制御装置 7 0 が装着されて反転傾斜姿勢の支持枠体 2 3 0 と第 1 腕部材 2 2 1 との連結箇所を示す部分斜視図である。図 4 1（a）は、支持枠体 2 3 0 を引き出して水平姿勢とした場合の第 1 回動連結部 2 5 0 の部分側面図、図 4 1（b）は、（a）の支持枠体 2 3 0 を反転傾斜姿勢とした場合の第 1 回動連結部 2 5 0 の部分側面図である。

【 0 1 9 1 】

この姿勢変更機構部 2 4 0 は、水平保持部 2 2 5 で水平状態で保持された支持枠体 2 3 0（図 2 8 参照）を、図 2 9 に示すように、その裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢（反転傾斜姿勢）で保持する表向き傾斜姿勢保持部 2 4 1 を備えている。

【 0 1 9 2 】

具体的には、図 3 9，図 4 1（a）に示すように支持枠体 2 3 0 が水平姿勢状態では、支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a は、切欠孔 2 3 8 内で当該切欠孔 2 3 8 の手前側端部に位置している。そして、支持枠体 2 3 0 をその先端側を起こすように姿勢変更すると、支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a が切欠孔 2 3 8 内で当該切欠孔 2 3 8 の手前側端部から奥側端部に移動していき、図 4 0，図 4 1（b）に示すように、最終的に支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a が切欠孔 2 3 8 内で当該切欠孔 2 3 8 の奥側端部に位置することで、支持

枠体 230 を表向き傾斜姿勢に保持する。

【0193】

ここで、図 26 及び図 27 に示す中間状態（側面視で逆 V ノ字状態）のリンク枠体 220 が、起立姿勢（図 25 参照）になる際に、支持ピン 242 を切欠孔 238 から引き出すピン引出機構部 247 について、図 42 ~ 図 46 を用いて説明する。

【0194】

図 42 (a) ~ (d) は、リンク枠体 220 が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台 200 の側面図である。図 43 (a) ~ (d) は、リンク枠体 220 が起立姿勢直前の状態から起立姿勢となる様子を示す取付台 200 の前方斜視図である。図 44 (a) ~ (d) は、第 1 腕部材 221 の支持ピン 242 の車輪 246 が第 2 腕部材 222 の案内レール 248 で案内される様子を示す要部部分を正面視した縦断面図である。図 45 (a) ~ (d) は、第 1 腕部材 221 の支持ピン 242 の車輪 246 が第 2 腕部材 222 の案内レール 248 で案内される様子を示す要部部分を前方斜視した縦断面斜視図である。図 46 (a) ~ (d) は、第 1 腕部材 221 の支持ピン 242 の車輪 246 が第 2 腕部材 222 の案内レール 248 で案内される様子を示す要部部分を前方斜視した横断面斜視図である。

【0195】

ピン引出機構部 247 は、図 42 , 図 43 に示すように、支持ピン 242 の車輪 246 を外側に引き出すための案内レール 248 を備えている。具体的には、この案内レール 248 は、図 46 に示すように、車輪 246 を案内するレール（車輪 246 のリムが当接するレール）であって、平面視で、バネ 243 の付勢力によって第 1 腕部材 221 の外面に接触する状態の車輪 246 の位置（図 46 (a) 参照）から外側に離れる位置（図 46 (c) 参照）に軌道を変更する経路形状のものであり、第 2 腕部材 222 に形成されている。その軌道変更量としては、支持ピン 242 のピン頭 242a が切欠孔 238 から抜け出る程度の長さがあればよい。つまり、支持ピン 242 のピン頭 242a が切欠孔 238 から抜け出る程度の長さだけ、その軌道をシフトできればよい。

【0196】

この実施例では、案内レール 248 は、図 44 及び図 46 に示すように、車輪 246 の挿入側から順に、バネ 243 の付勢力によって第 1 腕部材 221 の外面に接触する状態の車輪 246 を導入する導入レール部 248a と、この導入レール部 248a に連結されて当該導入レール部 248a よりも外側に離れるように外側向きレール部 248b と、この外側向きレール部 248b に連結されて奥側に向かう奥向きレール部 248c とを備えている。

【0197】

ここで、ピン引出機構部 247 による支持ピン 242 の切欠孔 238 からの引き出し動作について、以下に説明する。

【0198】

図 42 (a) 及び図 43 (a) に示すように、リンク枠体 220 が起立姿勢直前の状態（鋭角な逆 V ノ字状態）となると、図 44 (a) 、図 45 (a) 及び図 46 (a) に示すように、車輪 246 が第 2 腕部材 222 の案内レール 248 の入口に位置する。つまり、車輪 246 が案内レール 248 の導入レール部 248a に位置している。

【0199】

そして、図 42 (b) 及び図 43 (b) に示すように、第 1 腕部材 221 をさらに第 2 腕部材 222 に重なるように近づけると、図 44 (b) 、図 45 (b) 及び図 46 (b) に示すように、車輪 246 が案内レール 248 の外側向きレール部 248b に位置している。つまり、図 44 (b) に示すように、車輪 246 は第 1 腕部材 221 から少し離れた状態となっており、それによって、支持ピン 242 のピン頭 242a が切欠孔 238 から少し引き出された状態に当該支持ピン 242 が移動しており、ピン頭 242a がバネ 243 を縮める方向に少し移動していることで当該バネ 243 が少し縮んでいる。

【0200】

そして、図 4 2 (c) 及び図 4 3 (c) に示すように、第 1 腕部材 2 2 1 を第 2 腕部材 2 2 2 に完全に重なるように近づけると、図 4 4 (c)、図 4 5 (c) 及び図 4 6 (c) に示すように、車輪 2 4 6 が案内レール 2 4 8 の奥向きレール部 2 4 8 c に位置している。つまり、図 4 4 (c) に示すように、車輪 2 4 6 は、さらに外側に移動しており、それによって、支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a が第 1 腕部材 2 2 1 の切欠孔 2 3 8 から完全に引き出された状態に当該支持ピン 2 4 2 が移動しており、バネ 2 4 3 が完全に縮んでいる。

【 0 2 0 1 】

そして、図 4 2 (c) 及び図 4 3 (c) に示す水平姿勢の支持枠体 2 3 0 を起こして、図 4 2 (d) 及び図 4 3 (d) に示す起立姿勢にすると、図 2 4 に示すように支持枠体 2 3 0 の左側腕部 2 3 1 A 及び右側腕部 2 3 1 B の係止爪 2 3 9 が固定ベース 2 1 0 の係止孔 2 1 6 に係止する。

【 0 2 0 2 】

このように案内レール 2 4 8 に沿って支持ピン 2 4 2 の車輪 2 4 6 が外側に移動することで、この支持ピン 2 4 2 のピン頭 2 4 2 a が切欠孔 2 3 8 から引き出され、水平姿勢の支持枠体 2 3 0 が起立可能な状態となる。

【 0 2 0 3 】

なお、上述した取付台 2 0 0 が本発明における変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段に相当し、上述した支持枠体 2 3 0 が本発明における第 1 支持部、被取付体に相当し、上述したリンク枠体 2 2 0 が本発明における第 2 支持部に相当し、上述した固定ベース 2 1 0 が本発明における第 3 支持部に相当し、上述した姿勢変更機構部 2 4 0 が本発明における姿勢変更手段に相当し、上述した表向き傾斜姿勢保持部 2 4 1 が本発明における表向き傾斜姿勢保持手段に相当し、上述した延出部 2 3 5 が本発明における破壊部品落下防止手段に相当し、上述した延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 が本発明における載置部に相当する。

【 0 2 0 4 】

ここで、実施例 2 の取付台 2 0 0 への主制御装置 7 0 の取り付け方法について説明する。

【 0 2 0 5 】

図 3 0 に示すように支持枠体 2 3 0 を引き出した状態とし、図 2 3、図 2 8 に示すように、主制御装置 7 0 のケース上 7 1 側を下面にして当該主制御装置 7 0 を支持枠体 2 3 0 の上部からその両腕部の間に挿入するように載置する。図 3 0 に示すように、支持枠体 2 3 0 は、その横長枠部 2 3 4 の延出部 2 3 5 と、その両腕部の支持用延出片 2 3 7 とが、主制御装置 7 0 の上端部分の少なくとも一部と、主制御装置 7 0 の両端部分とを支持する。

【 0 2 0 6 】

そして、図 2 8 に示すように進出位置にある支持枠体 2 3 0 を、図 2 9 に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。

【 0 2 0 7 】

図 2 9 に示すように表向き傾斜姿勢の支持枠体 2 3 0 に対して、そのピン挿入孔 1 3 6 に二重かしめピン 1 9 3 を挿入して基板ケース 7 4 の別被封止部 1 9 2 に係止させるとともに、支持枠体 2 3 0 の右側の腕部の貫通孔を介して基板ケース 7 4 にタッピンネジ 1 9 7 を螺入することで、主制御装置 7 0 を支持枠体 2 3 0 にかしめ固定する。また、表向き傾斜姿勢の主制御装置 7 0 に対して、ケーブル（図示省略）の接続を行うので、接続作業がやり易い。

【 0 2 0 8 】

そして、図 2 9 に示すように支持枠体 2 3 0 の裏面を表向けた姿勢状態から、図 2 8 に示すように支持枠体 2 3 0 の裏面を下向きに戻す。

【 0 2 0 9 】

そして、リンク枠体 2 2 0 を伸張状態とした傾倒姿勢（図 2 8 参照）から、図 2 6 に示

すようにリンク枠体 220 の折り畳み途中状態を経て、図 25 に示すようにリンク枠体 220 を折り畳み状態での起立姿勢とすることで、図 28 に示すように進出位置にある支持枠体 230 を図 25 に示すように水平姿勢のまま本体 11 の内部に位置させる。

【0210】

そして、図 25 に示す水平姿勢の支持枠体 230 を、図 24 に示すように、起立姿勢にすると、支持枠体 230 の左側腕部 231 A 及び右側腕部 231 B の係止爪 239 が固定ベース 210 の係止孔 216 に係止する。

【0211】

こうすることで、取付台 200 への主制御装置 70 の取り付けが完了する。

【0212】

次に、実施例 2 の取付台 200 に取り付けした主制御装置 70 の点検方法について説明する。

【0213】

図 24 に示す収納支持状態の取付台 200 に対して、支持枠体 230 の左側腕部 231 A 及び右側腕部 231 B の係止爪 239 を内向き方向（主制御装置 70 の方に向ける）に押下して、係止爪 239 の固定ベース 210 の係止孔 216 への係止が解除された状態で、図 25 に示すように支持枠体 230 を水平姿勢にする。

【0214】

そして、図 25 に示す支持枠体 230 を、図 26 に示すようにリンク枠体 220 の折り畳み途中状態を経て、図 28 に示すようにリンク枠体 220 を伸張状態とした傾倒姿勢とすることで、支持枠体 230 を本体 11 から引き出した進出位置にする。図 23 に示すように、支持枠体 230 を引き出した状態において、主制御装置 70 の裏面側を目視点検することができる。なおこの状態で、主制御装置 70 を下から見て、主制御装置 70 の前面側を目視確認してもよい。また、支持枠体 230 は透明であるため、主制御装置 70 の天面や右側面や左側面も目視確認することができる。

【0215】

続いて、図 28 に示すように進出位置にある支持枠体 230 を、図 29 に示すようにその裏面を表向けるように姿勢変更する。図 29 に示すように、表向き傾斜姿勢とした主制御装置 70 の前面側を目視確認することができる。

【0216】

こうすることで、取付台 200 への主制御装置 70 の点検が完了する。

【0217】

なお、主制御装置 70 を元に戻す場合には、当該点検方法の逆の手順を行えばよい。つまり、表向き傾斜姿勢とした支持枠体 230 を水平姿勢に戻して（図 28 参照）、支持枠体 230 を進出位置（図 28 参照）から収容位置（図 25 参照）にスライドさせることで、リンク枠体 220 を伸張状態とした傾倒姿勢（図 28 参照）から、図 26 に示すようにリンク枠体 220 の折り畳み途中状態を経て、図 25 に示すようにリンク枠体 220 を折り畳み状態での起立姿勢となり、支持枠体 230 を起こすことで、図 24 に示す収納支持状態に戻すことができる。

【0218】

次に、実施例 2 の取付台 200 に取り付けした主制御装置 70 の取り外し方法について説明する。

【0219】

前述の点検方法で説明したように、図 24 に示す収納支持状態の取付台 200 から、図 29 に示すように、支持枠体 230 を表向き傾斜姿勢にする。

【0220】

図 29 に示す表向き傾斜姿勢の支持枠体 230 からタッピンネジ 197 を取り外す。

【0221】

次に、図 29 に示す表向き傾斜姿勢の支持枠体 230 を、図 23、図 28 に示すように水平姿勢に戻す。図 18 (a) に示すように、二重かしめピン 193 が挿入された別被封

止部 192 の取付解除用被切断部 196 を切断（破壊）して、図 18（b）に示すように、この切断された別被封止部 192 を回転（90 度回転）させ、図 18（c）に示すように、切断された別被封止部 192 を取り外し、図 18（d）に示すように、二重かしめピン 193 をピン挿入孔 136 から拔出方向に抜き出す。

【0222】

なお、取付解除用被切断部 196 の破壊痕跡を見ることによって、「B」と表記された箇所の別被封止部 192 が破壊されたことがわかり、ホール関係者などはスロットマシンごとにかしめ履歴データを所有しており、対象スロットマシンのかしめ履歴データと実機のかしめ状態とを比較することでその破壊を自ら行ったものか、不正に行われたものかわかる。

【0223】

上述したように、主制御装置 70 の支持枠体 230 へのかしめ固定が解除されたので、支持枠体 230 を図 28 に示すように水平姿勢にして、主制御装置 70 を支持枠体 230 から上方向に取り外す。なお、取り外された二重かしめピン 193 は、再使用することができる。

【0224】

こうすることで、取付台 200 からの主制御装置 70 の取り外しが完了する。

【0225】

上述したように、本実施例 2 のスロットマシン 10 によれば、前面側に開口部 11a を有する本体 11 と、この本体 11 の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部 11a を閉塞する前面扉 12 と、遊技に関する制御を行う主制御基板 73 を基板ケース 74 の内部に収容した主制御装置 70 と、この主制御装置 70 が取り付けられる支持枠体 230 と、主制御装置 70 を支持枠体 230 に取り外し不可に封印する別封止部材 190 と、主制御装置 70 を封印する封止部材 150 と、主制御装置 70 に設けられた、別封止部材 190 による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部 196 及び封止部材 150 による封印を解除するために破壊されるケース封止解除用被切断部 166 と、本体 11 の開口視で取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 が見えないように主制御装置 70 を本体 11 の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、取付解除用被切断部 196 を露出させるように主制御装置 70 を傾倒姿勢にして本体 11 の開口部 11a から引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する取付台 200 と、を備えている。

【0226】

したがって、取付台 200 による主制御装置 70 の隠蔽収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側箇所に起立姿勢で収納支持されているので、本体 11 内部奥側の主制御装置 70 に対して不正行為をし難くできるだけでなく、たとえ本体 11 の前面扉 12 を開けた状態としても本体 11 の開口視で取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 が見えないので、取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 に直接にアクセスすることができず、取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 を不正に破壊することが困難であり、主制御装置 70 への不正行為がし辛く、主制御装置 70 に対する不正行為を低減できる。

【0227】

また、取付台 200 による主制御装置 70 の露出引出支持状態では、取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 を露出させるように主制御装置 70 を傾倒姿勢にして本体 11 の開口から引き出した状態で支持するので、正当な作業（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）は、本体 11 内部の暗がりの中で主制御装置 70 を確認するのではなく、本体 11 から引き出した状態でしかも主制御装置 70 が視認可能であるので、主制御装置 70 の点検、封印及びその解除等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置 70 の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が本体 11 の前面扉 12 を開状態にして、主制御装置 70 を本体 11 の開口から引き出した状態（露出引出支持状態）で不正行為

を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、主制御装置 70（例えば、制御装置）の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、主制御装置 70 に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0228】

また、取付解除用被切断部 196 は、主制御装置 70 の隠蔽収納支持状態において主制御装置 70 の裏面側上部箇所 に設けられており、取付台 200 は、主制御装置 70 を支持する支持枠体 230 と、この支持枠体 230 が取り外し不可に連結されて支持枠体 230 を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに支持枠体 230 を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となるリンク枠体 220 と、このリンク枠体 220 が取り外し不可に連結されてリンク枠体 220 を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに本体 11 の内部奥側箇所 に固定される固定ベース 210 とを備えている。

【0229】

したがって、取付解除用被切断部 196 は、主制御装置 70 の露出引出支持状態において、手前側上面箇所 に位置しており、この取付解除用被切断部 196 に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【0230】

また、別封止部材 190 は、主制御装置 70 を被取付部材に取り外し不可に封印するものであり、主制御装置 70 を支持枠体 230 から取り外すことを低減できる。また、支持枠体 230、リンク枠体 220 及び固定ベース 210 が取り外し不可に連結されているので、支持枠体 230、リンク枠体 220 及び固定ベース 210 を取り外したりすることを低減できる。つまり、主制御装置 70 だけを取り外したり、主制御装置 70 を支持枠体 230 及びリンク枠体 220 ごとを取り外したりして主制御装置 70 に不正を施して戻したり、主制御装置 70 を取り外して別の不正な主制御装置 70 に交換したりすることを低減でき、主制御装置 70 への不正対策に優れる。

【0231】

また、支持枠体 230 は、主制御装置 70 の露出引出支持状態において取付解除用被切断部 196 及びケース封止解除用被切断部 166 の下方箇所 に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する延出部 235 を備えているので、封印解除した際にその破壊部品の落下が防止され、本体 11 内部に破壊部品が紛れ込んで見失ってしまうことや、本体 11 内部に入った破壊部品で当該本体 11 の部品等が損傷することも低減できる。

【0232】

また、取付台 200 は、主制御装置 70 を支持する支持枠体 230 と、この支持枠体 230 が取り外し不可に連結されて支持枠体 230 を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該支持枠体 230 を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となるリンク枠体 220 と、このリンク枠体 220 が取り外し不可に連結されて当該リンク枠体 220 を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所 に固定される固定ベース 210 とを備え、主制御装置 70 を支持枠体 230 に取り外し不可に封印する別封止部材 190 を備えている。したがって、別封止部材 190 によって主制御装置 70 が支持枠体 230 に取り外し不可に封印されているので、主制御装置 70 を支持枠体 230 から取り外すことを低減できる。また、支持枠体 230、リンク枠体 220 及び固定ベース 210 が取り外し不可に連結されているので、支持枠体 230、リンク枠体 220 及び固定ベース 210 を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置 70 だけを取り外したり、主制御装置 70 を支持枠体 230 やリンク枠体 220 ごとを取り外したりして主制御装置 70 に不正を施して戻したり、主制御装置 70 を取り外して別の不正な主制御装置 70 に交換したりすることを低減でき、主制御装置 70 への不正対策に優れる。また、取付台 200 による主制御装置 70 の引出支持状態を好適に実現することができる。

【 0 2 3 3 】

また、支持枠体 2 3 0 は、起立姿勢のリンク枠体 2 2 0 の収容位置から回動して水平姿勢となり、リンク枠体 2 2 0 は、支持枠体 2 3 0 が取り外し不可で当該支持枠体 2 3 0 が回動自在に連結された第 1 回動連結部 2 5 0 を先端側に備えた第 1 腕部材 2 2 1 と、この第 1 腕部材 2 2 1 の後端側に取り外し不可で当該第 1 腕部材 2 2 1 が回動自在に連結された第 2 回動連結部 2 6 0 を先端側に備えた第 2 腕部材 2 2 2 とを備え、この第 2 腕部材 2 2 2 の後端側が固定ベース 2 1 0 に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 とを折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 とを伸張した水平姿勢となり、取付台 2 0 0 は、第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 とを伸張した水平姿勢にして支持枠体 2 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した水平状態で保持する水平保持部 2 2 5 を備え、主制御装置 7 0 は、支持枠体 2 3 0 の水平状態において別封止部材 1 9 0 による封印を解除するために破壊される取付解除用被切断部 1 9 6 を備え、支持枠体 2 3 0 は、取付解除用被切断部 1 9 6 の破壊によって封印が解除された主制御装置 7 0 を支持する。したがって、主制御装置 7 0 を支持する支持枠体 2 3 0 を起立姿勢のリンク枠体 2 2 0 の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第 1 腕部材 2 2 1 と第 2 腕部材 2 2 2 とを伸張した水平姿勢とし、支持枠体 2 3 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出して水平状態で保持することができ、支持枠体 2 3 0 の水平状態において取付解除用被切断部 1 9 6 の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、取付解除用被切断部 1 9 6 は、手前側に配設されているので作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、支持枠体 2 3 0 の水平状態が水平保持部 2 2 5 によって保持されるので、下方のリールユニット 2 5 を保護することができる。

【 0 2 3 4 】

また、取付台 2 0 0 は、主制御装置 7 0 を支持する支持枠体 2 3 0 と、この支持枠体 2 3 0 が取り外し不可に連結されて支持枠体 2 3 0 を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該支持枠体 2 3 0 を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となるリンク枠体 2 2 0 と、このリンク枠体 2 2 0 が取り外し不可に連結されて当該リンク枠体 2 2 0 を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに本体 1 1 の内部奥側で且つリールユニット 2 5 の上方箇所に固定される固定ベース 2 1 0 とを備え、主制御装置 7 0 を支持枠体 2 3 0 に取り外し不可に封印する別封止部材 1 9 0 を備え、姿勢変更機構部 2 4 0 は、主制御装置 7 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部 2 4 1 を備えている。したがって、別封止部材 1 9 0 によって主制御装置 7 0 が支持枠体 2 3 0 に取り外し不可に封印されているので、主制御装置 7 0 を支持枠体 2 3 0 から取り外すことを低減できる。また、支持枠体 2 3 0、リンク枠体 2 2 0 及び固定ベース 2 1 0 が取り外し不可に連結されているので、支持枠体 2 3 0、リンク枠体 2 2 0 及び固定ベース 2 1 0 を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置 7 0 だけを取り外したり、主制御装置 7 0 を支持枠体 2 3 0 やリンク枠体 2 2 0 ごとを取り外したりして主制御装置 7 0 に不正を施して戻したり、主制御装置 7 0 を取り外して別の不正な主制御装置 7 0 に交換したりすることを低減でき、主制御装置 7 0 への不正対策に優れる。また、取付台 2 0 0 による主制御装置 7 0 の引出支持状態を好適に実現することができる。

【 0 2 3 5 】

また、表向き傾斜姿勢保持部 2 4 1 は、主制御装置 7 0 を本体 1 1 の開口部 1 1 a から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、作業（例えば、メーカー作業、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された主制御装置 7 0 の裏面に正対してこの主制御装置 7 0 の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【 0 2 3 6 】

特に、支持枠体 230 とリンク枠体 220 との連結構造としては、支持枠体 230 での左側腕部 231A、右側腕部 231B の先端側に近い側の箇所であって両外側からヒンジ用圧入ピン 251 を圧入して支持枠体 230 をリンク枠体 220 に対して回動自在に固定しているので、本体 11 の側面視で上記連結箇所が当該本体 11 の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、支持枠体 230、リンク枠体 220 及び固定ベース 210 ごと取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができるため、不正抑止効果がある。

【0237】

また、支持枠体 230 は、起立姿勢のリンク枠体 220 の収容位置から回動して水平姿勢となり、リンク枠体 220 は、支持枠体 230 が取り外し不可で当該支持枠体 230 が回動自在に連結された第 1 回動連結部 250 を先端側に備えた第 1 腕部材 221 と、この第 1 腕部材 221 の後端側に取り外し不可で当該第 1 腕部材 221 が回動自在に連結された第 2 回動連結部 260 を先端側に備えた第 2 腕部材 222 とを備え、この第 2 腕部材 222 の後端側が固定ベース 210 に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とを伸張した水平姿勢となり、リンク枠体 220 は、第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とを伸張した水平姿勢にして支持枠体 230 を本体 11 の開口部 11a から引き出した水平状態で保持する水平保持部 225 と、この水平保持部 225 で水平状態で保持された支持枠体 230 をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部 241 と、を備えている。したがって、主制御装置 70 を支持する支持枠体 230 を起立姿勢のリンク枠体 220 の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第 1 腕部材 221 と第 2 腕部材 222 とを伸張した水平姿勢とし、支持枠体 230 を本体 11 の開口部 11a から引き出して水平状態で保持することができ、主制御装置 70 の前面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置 70 の前面への不正な基板の取り付けが発見し易い。また、水平保持部 225 で水平状態で保持された支持枠体 230 をその裏面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、主制御装置 70 の裏面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、主制御装置 70 の裏面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【0238】

また、前面側に開口部 11a を有する本体 11 と、この本体 11 の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部 11a を閉塞する前面扉 12 と、複数の図柄を変動表示する、本体 11 の内部に設けられたリールユニット 25 と、本体 11 の内部で且つリールユニット 25 の上方箇所に収納される、遊技に関する制御を行う主制御装置 70 と、本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態（図 3、図 6 参照）と、支持枠体 230 の先端側部分がリールユニット 25 よりも前側に位置するように本体 11 の開口部 11a から引き出された引出状態（図 5、図 8 参照）とに変位する取付台 200 と、を備えているので、取付台 200 の収納状態では、本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット 25 の上方スペースを確保でき、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならない。

【0239】

また、取付台 200 の引出状態では、その少なくとも一部がリールユニット 25 よりも前側に位置するように本体 11 の開口部 11a 側に引き出された状態となっているので、装着の際に誤って主制御装置 70 を落下させたとしても、主制御装置 70 が引出状態の取付台 200 に当るだけで、この引出状態の取付台 200 の下方のリールユニット 25 に当たらないので、リールユニット 25 が損傷することが低減でき、リールユニット 25 を保護することができる。

【0240】

その結果、主制御装置 70 の誤落下によるリールユニット 25 の損傷を低減でき、リー

ルユニット２５の交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することができる。

【０２４１】

また、取付台２００による引出支持状態の支持枠体２３０の正面視で左側部分の一部が開状態の前面扉１２の内側右辺箇所（開閉軸Ｊ１に近い辺の一部箇所）に当接することで、前面扉１２を開状態に維持するので、作業者は前面扉１２を開状態に維持するように持っておく必要がなく、主制御装置７０の着脱作業に集中できる。また、主制御装置７０の着脱作業中に前面扉１２が勢いよく閉まろうとして部品や装置が損傷することを低減できる。

【０２４２】

また、前面側に開口部１１ａを有する本体１１と、この本体１１の前面側で開閉可能であって閉状態で開口部１１ａを閉塞する前面扉１２と、複数の図柄を変動表示する、本体１１内部に設けられたリールユニット２５と、遊技に関する制御を行う主制御装置７０と、この主制御装置７０が取り付けられる支持枠体２３０と、主制御装置７０を本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納するように支持枠体２３０を支持する収納支持状態と、支持枠体２３０の少なくとも一部がリールユニット２５よりも前側に位置するように当該支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａ側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する取付台２００と、を備え、支持枠体２３０は、引出支持状態において主制御装置７０が載置される延出部２３５及び支持用延出片２３７を備えているので、取付台２００による支持枠体２３０の収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で且つリールユニット２５の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置７０が本体１１の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット２５の上方スペースを確保でき、リールユニット２５の交換作業の邪魔にならない。

【０２４３】

また、取付台２００による支持枠体２３０の引出支持状態では、支持枠体２３０の先端側がリールユニット２５よりも前側に位置するように当該支持枠体２３０を本体１１の開口部１１ａ側に引き出された状態となっており、主制御装置７０は、この引出支持状態の支持枠体２３０の延出部２３５及び支持用延出片２３７に載置されて取り付けられるので、主制御装置７０の支持枠体２３０への装着がし易い。また、装着の際に誤って主制御装置７０を落下させたとしても、主制御装置７０が引出支持状態の支持枠体２３０に当たるだけで、この引出支持状態の支持枠体２３０の下方のリールユニット２５に当たらないので、リールユニット２５が損傷することが低減でき、リールユニット２５を保護することができる。また、取付台２００及びこの取付台２００による引出支持状態の支持枠体２３０を、リールユニット２５を保護する機構として使用することができるし、主制御装置７０の落下防止機構としても使用することができる。

【０２４４】

また、主制御装置７０を取り付ける際には、引き出されて水平姿勢の支持枠体２３０の延出部２３５及び支持用延出片２３７に上方から主制御装置７０を載置して取り付け、主制御装置７０を取り外す際には、引き出されて水平姿勢の支持枠体２３０の延出部２３５及び支持用延出片２３７の上方に主制御装置７０を引き上げて取り外すので、主制御装置７０をリールユニット２５に接触させることがなく、当該リールユニット２５を損傷させることが防止できる。

【０２４５】

また、本体１１内部の暗がりの中で主制御装置７０を確認するのではなく、取付台２００によって本体１１から引き出した引出支持状態で主制御装置７０を視認できるので、主制御装置７０の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置７０の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、主制御装置７０を本体１１の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【 0 2 4 6 】

その結果、主制御装置 7 0 の誤落下や接触によるリールユニット 2 5 の損傷を低減でき、リールユニット 2 5 の交換作業を容易に行うことができ、且つ、主制御装置 7 0 に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【 0 2 4 7 】

また、取付台 2 0 0 による引出支持状態の支持枠体 2 3 0 は、主制御装置 7 0 が延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 から持ち上げて取り外され、主制御装置 7 0 が延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 に載置して取り付けられるので、主制御装置 7 0 の着脱の際に、リールユニット 2 5 に当ることが低減できる。

【 0 2 4 8 】

また、延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 は、引出支持状態の支持枠体 2 3 0 の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置 7 0 の下面側での両端部分と手前端部分を支持する透明支持部であるので、主制御装置 7 0 での当該延出部 2 3 5 及び支持用延出片 2 3 7 と対向する部分も目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。

【 実施例 3 】

【 0 2 4 9 】

次に、実施例 3 のスロットマシン 1 0 の基板ケース 7 4 について図 4 7 ～ 図 5 4 を用いて説明する。

【 0 2 5 0 】

図 4 7 は、前面扉 1 2 を取り外した状態での実施例 3 のスロットマシン 1 0 の内部を示す図である。図 4 8 は、実施例 3 の取付台 1 0 0 の引出姿勢規制部 3 0 0 の分解斜視図である。図 4 9（a）は、主制御装置 7 0 が収納支持状態である実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す斜視図、図 4 9（b）は、回動枠体 1 2 0 を傾けた状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す斜視図である。図 5 0（a）は、回動枠体 1 2 0 を水平姿勢に傾倒した状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す斜視図、図 5 0（b）は、水平姿勢の回動枠体 1 2 0 からスライド枠体 1 3 0 を引き出した状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す斜視図である。図 5 1 は、引き出したスライド枠体 1 3 0 の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す斜視図である。図 5 2（a）は、主制御装置 7 0 が収納支持状態である実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す側面図、図 5 2（b）は、回動枠体 1 2 0 を傾けた状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す側面図である。図 5 3（a）は、回動枠体 1 2 0 を水平姿勢に傾倒した状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す側面図、図 5 3（b）は、水平姿勢の回動枠体 1 2 0 からスライド枠体 1 3 0 を引き出した状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す側面図である。図 5 4 は、引き出したスライド枠体 1 3 0 の裏面を表向けるように反転傾斜姿勢とした状態の実施例 3 の取付台 1 0 0 を示す側面図である。

【 0 2 5 1 】

実施例 3 の取付台 1 0 0 は、図 4 7 及び図 4 8 に示すように、引出姿勢規制部 3 0 0 を備えている点が、前述の実施例 1 と異なっている。よって、前述の実施例 1 と異なる構成について以下に詳細に説明することとし、実施例 1 と同様の構成についてはここでの説明を省略する。

【 0 2 5 2 】

取付台 1 0 0 は、図 4 7 及び図 4 8 に示すように、収納支持状態（図 4 9（a）及び図 5 2（a）参照）から引出支持状態（図 5 0（b）及び図 5 3（b）参照）に変位する際の主制御装置 7 0 の引き出し姿勢を規制する引出姿勢規制部 3 0 0 を備えている。

【 0 2 5 3 】

この引出姿勢規制部 3 0 0 は、起立姿勢の主制御装置 7 0（図 4 9（a）及び図 5 2（a）参照）の下辺側を回動軸として当該主制御装置 7 0 を回動させた傾倒姿勢（図 5 0（a）及び図 5 3（a）参照）とした後に、当該傾倒姿勢の主制御装置 7 0 を引き出すように規制するものである。

【 0 2 5 4 】

具体的には、引出姿勢規制部 300 は、固定ベース 110 の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して、図 50 (a) に示す傾倒姿勢の回動枠体 120 の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該固定ベース 110 に例えばネジ 301 で (図 48 参照) 固定された一対の延出固定部材 310 を備えている。

【0255】

この一対の延出固定部材 310 は、スライド枠体 130 が収納位置に収められた状態 (図 49 (a) 及び図 52 (a) 参照) において回動枠体 120 の起立姿勢と傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部 311 (円弧状の切り欠き孔 312) と、回動枠体 120 が傾倒姿勢である状態 (図 50 (a) 及び図 53 (a) 参照) においてスライド枠体 130 の収容位置と進出位置との進退を許容する進退許容部 313 (直線状の切り欠き孔 314) とをそれぞれ備えている。なお、図 48 に示すように、直線状の切り欠き孔 314 と円弧状の切り欠き孔 312 とは連通している。

【0256】

また、この一対の延出固定部材 310 は、図 47 に示すように、本体 11 内部の両側壁面の近傍に位置している。

【0257】

スライド枠体 130 は、実施例 1 で前述したように、その両側面箇所にかしめ穴 132 が形成されている (図 48 参照)。また、回動枠体 120 は、実施例 1 で前述したように、その両側面箇所に、スライド枠体 130 の進退方向に延びる直線状の水平スリット部 127a が形成されている (図 48 参照)。

【0258】

レール用圧入ピン 128 を、延出固定部材 310 の切り欠き孔と、回動枠体 120 の直線状の水平スリット部 127a とにその順番に挿入した状態でスライド枠体 130 のかしめ穴 132 に圧入することで、スライド枠体 130 が回動枠体 120 に取り外し不可に連結されている。

【0259】

図 47 に示すように、レール用圧入ピン 128 の長さ L1 は、延出固定部材 310 と本体 11 の内面との距離 L2 よりも長くなっている。

【0260】

また、一対の延出固定部材 310 は、傾倒姿勢の回動枠体 120 からスライド枠体 130 が進出位置に進出された状態においてスライド枠体 130 の裏面を表向けることを許容する表向け許容部 315 (表向け許容切り欠き孔 316) をそれぞれ備えている。

【0261】

また、一対の延出固定部材 310 は、図 47 に示すように、本体 11 の内部の側壁面の近傍に位置しており、延出固定部材 310 間の間隔がリールユニット 25 の幅よりも広いので、リールユニット 25 の上方スペースを実質的にも確保でき、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならない。

【0262】

なお、上述した引出姿勢規制部 300 が本発明における引出姿勢規制手段に相当する。

【0263】

上述したように、本実施例 3 のスロットマシン 10 によれば、取付台 100 による主制御装置 70 の収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、主制御装置 70 が本体 11 の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、リールユニット 25 の上方スペースを確保でき、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならない。

【0264】

また、取付台 100 による主制御装置 70 の引出支持状態では、主制御装置 70 をその前面及び裏面が視認可能に、本体 11 の開口部 11a から引き出した傾倒姿勢で支持するので、本体 11 内部の暗がりの中で主制御装置 70 を確認するのではなく、本体 11 から

引き出した傾倒姿勢でしかも主制御装置 70 の前面及び裏面が視認可能であるので、主制御装置 70 の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置 70 の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が前面扉 13 を開状態にして、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 11a から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【0265】

また、引出姿勢規制部 300 は、収納支持状態（図 49（a）及び図 52（a）参照）から引出支持状態（図 50（b）及び図 53（b）参照）に変位する際の主制御装置 70 の引き出し姿勢を規制するので、主制御装置 70 の引き出しの際に本体 11 内部の他の部品 320（例えば、図 52 及び図 54 に破線で示すような筐体内部の天面箇所 に配設された部品 320）などと接触させることを防止できる。例えば、誰が作業しても主制御装置 70 を規制された引き出し姿勢で引き出しすることができ、作業による主制御装置 70 の引き出し方の違いで主制御装置 70 を本体 11 内部の他の部品 320 などと接触させてしまうという問題を解消することができる。また、引出姿勢規制部 300 による主制御装置 70 の引き出し姿勢の規制に従って当該主制御装置 70 を引き出せばよいので、初めての作業での戸惑いなくスムーズに主制御装置 70 を引き出すことができる。

【0266】

その結果、リールユニット 25 の交換作業の邪魔にならず、主制御装置 70 の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、主制御装置 70 に対する不正行為を低減でき、主制御装置 70 の引き出しの際に本体 11 内部の他の部品 320 等との接触を防止できる遊技機を提供することができる。

【0267】

また、引出姿勢規制部 300 は、起立姿勢の主制御装置 70 の下辺側を回動軸として当該主制御装置 70 を回動させた傾倒姿勢とした後に、当該傾倒姿勢の主制御装置 70 を引き出すように規制するので、主制御装置 70 が傾倒姿勢以外の禁止姿勢（例えば、傾斜姿勢や起立姿勢）で引き出されることを規制でき、この禁止姿勢での引き出しによる本体 11 内部の他の部品 320（例えば、図 52 及び図 54 に破線で示す筐体内部の天面箇所 に配設された部品 320）などへの接触を防止できる。

【0268】

また、取付台 100 は、スライド枠体 130、回動枠体 120 及び固定ベース 110 を備えている。スライド枠体 130 は、主制御装置 70 を支持する。回動枠体 120 は、スライド枠体 130 が取り外し不可に連結されており、スライド枠体 130 を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該スライド枠体 130 を進退自在に支持する。固定ベース 110 は、回動枠体 120 が取り外し不可に連結されており、回動枠体 120 を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、本体 11 の内部奥側で且つリールユニット 25 の上方箇所 に固定される。別封止部材 190 は、主制御装置 70 をスライド枠体 130 に取り外し不可に封印する。したがって、別封止部材 190 によって主制御装置 70 がスライド枠体 130 に取り外し不可に封印されているので、主制御装置 70 をスライド枠体 130 から取り外すことを低減できる。また、スライド枠体 130、回動枠体 120 及び固定ベース 110 が取り外し不可に連結されているので、スライド枠体 130、回動枠体 120 及び固定ベース 110 を取り外したりすることを低減できる。その結果、主制御装置 70 だけを取り外したり、主制御装置 70 を第 1、回動枠体 120 ごとを取り外したりして主制御装置 70 に不正を施して戻したり、主制御装置 70 を取り外して別の不正な主制御装置 70 に交換したりすることを低減でき、主制御装置 70 への不正対策に優れる。また、取付台 100 による主制御装置 70 の引出支持状態を好適に実現することができる。

【0269】

また、引出姿勢規制部 300 は、固定ベース 110 の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して傾倒姿勢の回動枠体 120 の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該固

定ベース 110 に固定された一对の延出固定部材 310 を備えている。この一对の延出固定部材 310 は、スライド枠体 130 が収納位置に収められた状態において回転枠体 120 の起立姿勢と傾倒姿勢との回転を許容する回転許容部 311 と、回転枠体 120 が傾倒姿勢である状態においてスライド枠体 130 の収容位置と進出位置との進退を許容する進退許容部 313 とをそれぞれ備えている。また、一对の延出固定部材 310 は、本体 11 内部の両側壁面の近傍に位置しているので、スライド枠体 130 と回転枠体 120 との連結箇所には不正にアクセスすることを困難にでき、かかる連結を不正に解除することを低減できる。

【0270】

また、延出固定部材 310 の回転許容部 311 は、回転枠体 120 の回転を許容するべく円弧状の切り欠き孔 312 となっている。延出固定部材 310 の進退許容部 313 は、円弧状の切り欠き孔 312 に連通されて、スライド枠体 130 の進退を許容するべく直線状の切り欠き孔 314 となっている。スライド枠体 130 は、その両側面箇所に、かしめ穴が形成されている。回転枠体 120 は、その両側面箇所に、スライド枠体 130 の進退方向に延びる直線状切り欠き孔が形成されている。圧入ピンを、延出固定部材 310 の切り欠き孔と、回転枠体 120 の直線状切り欠き孔とにその順番に挿入した状態でスライド枠体 130 のかしめ穴に圧入することで、スライド枠体 130 が回転枠体 120 に取り外し不可に連結されている。圧入ピンの長さは、延出固定部材 310 と本体 11 の内面との距離よりも長くなっているので、圧入ピンを不正に抜こうとしても、そのピン頭が本体 11 の内面に当り抜くことができない。よって、圧入ピンの不正な抜き取りを低減できる。

【0271】

また、姿勢変更機構部 140 は、主制御装置 70 を本体 11 の開口部 11a から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する。一对の延出固定部材 310 は、傾倒姿勢の回転枠体 120 からスライド枠体 130 が進出位置に進出された状態においてスライド枠体 130 の裏面を表向けることを許容する表向け許容部 315 をそれぞれ備えている。したがって、本体 11 から引き出した状態で主制御装置 70 をその裏面を表向けるように姿勢変更できるので、主制御装置 70 の前面及び裏面について作業（例えば、メーカー作業、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、主制御装置 70 の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、主制御装置 70 の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。

【0272】

なお、本実施例 3 では、延出固定部材 310 は、図 54 に示すように、回転許容部 311 として円弧状の切り欠き孔 312 と、進退許容部 313 として直線状の切り欠き孔 314 と、表向け許容部 315 として表向け許容切り欠き孔 316 とを形成しているが、これらをそれぞれ円弧状の切り欠き穴と、進退許容部 313 として直線状の切り欠き穴と、表向け許容部 315 として表向け許容切り欠き穴とを延出固定部材 310 の回転枠体 130 との対向面側に形成するようにし、レール用圧入ピン 128 を回転枠体 120 の水平スリット部 127a に挿入した状態でスライド枠体 130 のかしめ穴 132 に圧入し、このレール用圧入ピン 128 のピン頭 128b を前述した円弧状の切り欠き穴や直線状の切り欠き穴や表向け許容切り欠き穴に位置するようにこの延出固定部材 310 を固定ベース 110 に固定するようにしてもよい。

【0273】

この発明は、上記実施形態に限られることはなく、同様の効果を奏する別の構成としてもよく、例えば下記のように変形実施することができる。

【0274】

< 1 > 上述した実施例 1 では、図 16 に示すように、別封止部材 190 は基板ケース 74 を取付台 100 のスライド枠体 130 に固定するとともに、基板ケース 74 を開封不可とするものを例に挙げて説明しているが、別封止部材 190 を、取付台 100 のスライド枠体 130 に基板ケース 74 を固定する構成を採用してもよい。

【0275】

< 2 > 上述した実施例 2 では、図 29 に示すように、別封止部材 190 は基板ケース 74 を取付台 200 の支持枠体 230 に固定するとともに、基板ケース 74 を開封不可とするものを例に挙げて説明しているが、別封止部材 190 を、取付台 200 の支持枠体 230 に基板ケース 74 を固定する構成を採用してもよい。

【0276】

< 3 > 上述した各実施例では、主制御基板 73 の電子部品実装面を、ケース上 71 の内側面に対向させた状態で当該ケース上 71 の内側面に取り付けているが、主制御基板 73 の半田面をケース上 71 に対向させて取り付けのようにしてもよい。また、主制御基板 73 をケース上 71 に取り付けているがケース下 72 に取り付けのようにしてもよいし、ケース下 72 の内側面に主制御基板 73 の電子部品実装面を対向させて取り付けのようにしてもよいし、半田面を対向させて取り付けのようにしてもよい。

【0277】

< 4 > 上述した実施例 1 では、図 16 に示すように、タッピンネジ 197 でスライド枠体 130 と主制御装置 70 とを固定しているが、このタッピンネジ 197 のネジ山部分に接着剤を付けた状態で、スライド枠体 130 と主制御装置 70 とをネジ止めすることで、ネジを接着固定してしまい、このネジを取り外せないようにしてもよい。また、このタッピンネジ 197 に替えて、締める方向にしか回せないワンウェイネジや、締める方向に一定以上の力がかかるとネジ頭の一部分が破断する破断ネジなどで、スライド枠体 130 と主制御装置 70 とをネジ止め固定するようにしてもよい。

【0278】

なおこれらの場合には、スライド枠体 130 及び主制御装置 70 での各タッピンネジ止め箇所部が、当該箇所部以外の本体部から切外し可能な構成とするのが好ましい。例えば、スライド枠体 130 及び主制御装置 70 での各タッピンネジ止め箇所部と本体部とが連結部（幅の狭い形状、厚みの薄い形状、幅狭で薄い形状の連結部）で連結されており、この連結部を切断することで各タッピンネジ止め箇所部と本体部との縁が切れる構成が一例として挙げられる。

【0279】

また、上述した実施例 2 でのタッピンネジ 197 を上記のようにしてもよい。

【0280】

< 5 > 上述した実施例 1 では、図 16 に示すように、タッピンネジ 197 でスライド枠体 130 と主制御装置 70 とを固定しているが、タッピンネジ 197 に替えて通常のネジを採用し、主制御装置 70 に雌ネジ部を形成しておき、この通常のネジをスライド枠体 130 の貫通孔 138 を介して主制御装置 70 の雌ネジ部にネジ止めするようにしてもよい。なお、上述した実施例 2 でのタッピンネジ 197 についても上記のようにしてもよい。

【0281】

< 6 > 上述した各実施例のケース上 71 及びケース下 72 は両者を合わせた状態でその少なくとも一方をスライド移動させることで、ケース上 71 及びケース下 72 が閉塞した状態となる構成を採用しているが、スライド無しの嵌め合わせ構造や、回動軸を軸心として回動式で組み合わせる構成などを採用してもよい。

【0282】

< 7 > 上述した各実施例では、取付解除用被切断部 196 は所定箇所を切断工具で切断破壊されるものとしているが、例えば、取付解除用被切断部 196 の肉厚を他の箇所と比べて薄くし、かかる取付解除用被切断部 196 を押下することで破断するものとしてもよい。

【0283】

< 8 > 上述した各実施例では、主制御基板 73 を内部に収容する基板ケース 74 を例に挙げて説明しているが、主制御基板 73 以外の表示制御基板などの各種の制御基板を内部に収容する基板ケース 74 に採用することもできる。

【0284】

< 9 > 上述した各実施例では、基板ケース 74 は、ケース上 71 とケース下 72 とを合

わせた状態でその内部空間に主制御基板 73 を収納するものとしているが、例えば、ケース上 71 に主制御基板 73 を取り付けた後に、ケース上 71 の主制御基板 73 の取付面側を他の部材で覆い、さらにこの他の部材の少なくとも一部をケース下 72 で覆い、ケース上 71 及びケース下 72 を封止部材 150 で封止して当該基板ケース 74 を開封不可とするようにしてもよい。

【0285】

<10> 上述した各実施例では、二重かしめピン 193 (封印手段) を採用しているが、その他の形状のかしめピンを採用してもよい。

【0286】

<11> 上述した実施例 1 では、取付解除用被切断部 196 を主制御装置 70 に備えているが、スライド枠体 130 に備えるようにしてもよいし、主制御装置 70 及びスライド枠体 130 に備えるようにしてもよい。

【0287】

<12> 上述した実施例 1 では、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側での両端部分と手前端部分とをそれぞれ支持する支持用延出片 137 及び延出部 135 を採用し、上述した実施例 2 では、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側での両端部分と手前端部分とをそれぞれ支持する支持用延出片 237 及び延出部 235 を採用しているが、図 55 に示すようにスライド枠体 130 の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側で幅方向全体に亘る透明面状部 (図 55 の支持用延出片 137) や、図 56 に示すように支持枠体 230 の下部側に形成されて、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側で幅方向全体に亘る透明面状部 (図 56 の支持用延出片 237) を採用してもよい。

【0288】

なお、図 55 に示したスライド枠体 130 の透明面状部 (図 55 の支持用延出片 137) を、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側全体に亘るものや、その奥行き方向全体に亘るものとしてもよいし、透明面状部の一部に、主制御装置 70 の突起部分を逃がすための開口を形成してもよい。図 56 に示した支持枠体 230 の透明面状部 (図 56 の支持用延出片 237) を、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側全体に亘るものや、その奥行き方向全体に亘るものとしてもよいし、透明面状部の一部に、主制御装置 70 の突起部分を逃がすための開口を形成してもよい。

【0289】

なお、図 55 に示したスライド枠体 130 の透明面状部としての支持用延出片 137 や、図 56 に示した支持枠体 230 の透明面状部としての支持用延出片 237 は、水平姿勢の主制御装置 70 の下面側の幅方向全体を覆う覆い部であるとも言える。この図 55 に示す支持用延出片 137 や図 56 に示す支持用延出片 237 を水平姿勢の主制御装置 70 の下面側の全体に亘るものや、その奥行き方向全体に亘るものとしてもよい。

【0290】

<13> 上述した実施例では、本発明を各種 (例えば第一種、第三種など) の遊技機に実施してもよいし、上記実施例とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回 (例えば 2 回、3 回) 大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機 (通称、2 回権利物、3 回権利物と称される。) として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の領域に球を入賞されることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。また、球が所定の入賞口に入ることによって特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。さらに、パチンコ機以外にも、アレンジボール型パチンコ、雀球、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機等の各種遊技機として実施するようにしてもよい。

【0291】

なお、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する可変表示手段を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作 (ボタン操作)

に基づく所定量の遊技球の投入後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に有利な大当たり状態が発生させられ、遊技者には、下部の受け皿に多量の球が払い出されるものである。

【0292】

なお、本明細書は、次のような遊技機に係る発明も開示している。

従来、遊技機の代表例として例えばスロットマシンがある。このスロットマシンは、例えば、前面側に開口を有する箱状の本体キャビネットと、この本体キャビネットの前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、複数の図柄が表示された回転リールを本体キャビネット内部に複数個横並びに設けたリールユニットと、当該スロットマシンの遊技に関する制御を行う制御基板がケースに収納された制御装置と、本体キャビネットの内部奥側で且つリールユニット上方箇所に制御装置を起立姿勢で支持するとともに、制御装置へのケーブル接続のために当該制御装置をその下辺側を回転軸として起立姿勢から水平姿勢に回転変更可能な可動取付装置と、を備えたもの（以下、適宜に「第1先行例」と呼ぶ）がある（例えば、特開2003-250961号公報参照）。

また、本体キャビネットの内部で制御装置を水平姿勢で支持するスライド支持板を、本体キャビネットの開口から突出させるようにスライドさせるスライド装置を備えたもの（以下、適宜に「第2先行例」と呼ぶ）もある（例えば、特開2003-250961号公報参照）。

しかしながら、このような構成を有する従来例の場合には、次のような問題がある。

すなわち、従来の前述した第1先行例及び第2先行例のスロットマシンでは、例えば、本体キャビネットの扉を開いた状態にすると、制御装置を開封不可とするかしめ箇所、あるいは、制御装置を可動取付装置に取り外し不可とするかしめ箇所が見えるため、かしめ箇所にアクセス可能であり、不正なかしめ切断（破壊）作業によってかしめ固定が不正に解除されるという問題がある。

また、正当な作業（例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など）がかしめ解除する場合には、前述した第1先行例のスロットマシンでは、本体キャビネットの内部奥側に位置する起立姿勢の制御装置に対してかしめ解除作業を行うことになるが、本体キャビネットの内部が暗いし、制御装置が奥側に位置することもあるため、かしめ解除作業が煩わしいという問題がある。

また、前述した第2先行例のスロットマシンでは、スライド支持板に水平姿勢で取り付けられた制御装置は、本体キャビネットの内部奥側に起立姿勢で取り付けられた場合に比べて、前面側に近いため、不正行為を受けやすいという問題がある。また、スライド支持板を本体キャビネットの開口から突出させた状態で制御装置の上面を目視確認できないため、制御装置の下面（制御装置でのスライド支持板と対向する面）を目視確認できないため、制御装置の下面に不正な基板を取り付けた不正行為を発見できないという問題もある。

下記（1）に係る発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御装置の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、制御装置に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

【0293】

（1） 前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

遊技に関する制御を行う制御基板を基板収容ケースの内部に収容した制御手段と、

前記制御手段が取り付けられる被取付部材と、

前記制御手段を開封不可に封印、または、前記制御手段を前記被取付部材に取り外し不可に封印する封止手段と、

前記被取付部材または前記制御手段の少なくとも一方に設けられた、前記封止手段による封印を解除するために破壊される封止解除用被破壊部と、

前記筐体の開口視で前記封止解除用被破壊部が見えないように前記制御手段を前記筐体の内部奥側箇所不起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、前記封止解除用被破壊部を露出させるように前記制御手段を傾倒姿勢にして前記筐体の前記開口から引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する隠蔽露出変更支持手段と、
を備えている

ことを特徴とする遊技機である。

【0294】

前記(1)に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行う制御基板を基板収容ケースの内部に収容したものである。被取付部材は、制御手段が取り付けられる。封止手段は、制御手段を開封不可に封印、または、制御手段を被取付部材に取り外し不可に封印する。封止解除用被破壊部は、封止手段による封印を解除するために破壊されるものであり、被取付部材または制御手段の少なくとも一方に設けられている。隠蔽露出変更支持手段は、筐体の開口視で封止解除用被破壊部が見えないように制御手段を筐体の内部奥側箇所不起立姿勢で収納支持する隠蔽収納支持状態と、封止解除用被破壊部を露出させるように制御手段を傾倒姿勢にして筐体の開口から引き出した状態で支持する露出引出支持状態とに変位する。

【0295】

したがって、隠蔽露出変更支持手段による制御手段の隠蔽収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側箇所不起立姿勢で収納支持されているので、筐体内部奥側の制御手段に対して不正行為をし難くできるだけでなく、たとえ筐体の扉を開けた状態としても筐体の開口視で封止解除用被破壊部が見えないので、封止解除用被破壊部に直接にアクセスすることができず、封止解除用被破壊部を不正に破壊することが困難であり、制御手段への不正行為がし辛く、制御手段に対する不正行為を低減できる。

【0296】

また、隠蔽露出変更支持手段による制御手段の露出引出支持状態では、封止解除用被破壊部を露出させるように制御手段を傾倒姿勢にして筐体の開口から引き出した状態で支持するので、正当な作業(例えば、ホール関係者や製造会社の技術者など)は、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、筐体から引き出した状態でしかも制御手段が視認可能であるので、制御手段の点検、封印及びその解除等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が筐体の扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態(露出引出支持状態)で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、制御手段(例えば、制御装置)の点検、封印及びその解除等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0297】

なお、本明細書で言う「開封不可」とは、破壊痕跡を残さずに開封できないという意味である。

【0298】

(2) 前記(1)に記載の遊技機において、

前記封止解除用被破壊部は、前記制御手段の前記隠蔽収納支持状態において前記被取付部材または前記制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられており、

前記隠蔽露出変更支持手段は、前記制御手段を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持する

ことを特徴とする遊技機。

【0299】

前記(2)に記載の発明によれば、封止解除用被破壊部は、制御手段の隠蔽収納支持状態において被取付部材または制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられている。隠蔽露出変更支持手段は、制御手段を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸

として回動自在に支持する。したがって、封止解除用被破壊部は、制御手段の露出引出支持状態において、手前側上面箇所位置に位置しており、この封止解除用被破壊部に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【0300】

(3) 前記(1)に記載の遊技機において、

前記隠蔽露出変更支持手段は、前記制御手段を支持する、前記被取付部材としての第1支持部と、この第1支持部が取り外し不可に連結されて前記第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する第2支持部と、前記第2支持部が取り外し不可に連結されて当該第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側箇所に固定される第3支持部とを備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0301】

前記(3)に記載の発明によれば、隠蔽露出変更支持手段は、第1～第3支持部を備えている。被取付部材としての第1支持部は、制御手段を支持する。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可に連結されており、第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する。第3支持部は、第2支持部が取り外し不可に連結されており、第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側箇所に固定される。したがって、封止解除用被破壊部は、制御手段の露出引出支持状態において、手前側上面箇所位置に位置しており、この封止解除用被破壊部に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。また、封止手段が、制御手段を被取付部材に取り外し不可に封印するものである場合には、制御手段を第1支持部から取り外すことを低減できる。また、第1～第3支持部が取り外し不可に連結されているので、第1～第3支持部を取り外したりすることを低減できる。つまり、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第1、第2支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。

【0302】

また、「前記封止解除用被破壊部は、前記制御手段の前記隠蔽収納支持状態において前記被取付部材または前記制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられており、

前記隠蔽露出変更支持手段は、前記制御手段を支持する、前記被取付部材としての第1支持部と、この第1支持部が取り外し不可に連結されて前記第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第1支持部を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となる第2支持部と、前記第2支持部が取り外し不可に連結されて当該第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側箇所に固定される第3支持部とを備えている」としてもよい。

【0303】

この場合には、封止解除用被破壊部は、制御手段の隠蔽収納支持状態において被取付部材または制御手段の少なくとも一方の裏面側上部箇所に設けられている。隠蔽露出変更支持手段は、第1～第3支持部を備えている。被取付部材としての第1支持部は、制御手段を支持する。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可に連結されており、第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第1支持部を回動自在に支持するものであって、起立姿勢では折り畳み状態となり、傾倒姿勢では伸張状態となる。第3支持部は、第2支持部が取り外し不可に連結されており、第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに側面視下辺側を回動軸として回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側箇所に固定される。したがって、封止解除用被破壊部は、制御手段の露出引出支持状態において、手前側上面箇所位置に位置しており、この封止解除用被破壊部に対して真上から破壊作業を行うことができ、封印解除作業がし易い。

【0304】

また、封止手段が、制御手段を被取付部材に取り外し不可に封印するものである場合には、制御手段を第1支持部から取り外すことを低減できる。また、第1～第3支持部が取り外し不可に連結されているので、第1～第3支持部を取り外したりすることを低減できる。つまり、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第1、第2支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。

【0305】

(4) 前記(2)または(3)に記載の遊技機において、

前記被取付部材または前記制御手段は、当該制御手段の前記露出引出支持状態において前記封止解除用被破壊部の下方箇所に、その破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する破壊部品落下防止手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0306】

前記(4)に記載の発明によれば、被取付部材または制御手段は、この制御手段の露出引出支持状態において封止解除用被破壊部の下方箇所に破壊部品落下防止手段を備えており、破壊部品落下防止手段は、封止解除用被破壊部の破壊によって分離された破壊部品の落下を防止する。したがって、封印解除した際にその破壊部品の落下が防止され、筐体内部に破壊部品が紛れ込んで見失ってしまうことや、筐体内部に入った破壊部品で当該筐体内の部品等が損傷することも低減できる。

【0307】

また、本明細書は、次のような第1課題を解決できる、遊技機に係る発明も開示している。

【0308】

<第1課題>

従来前述した第1先行例のスロットマシンでは、例えば、本体キャビネットの内部奥側に位置する起立姿勢の制御装置に対しては、本体キャビネットの内部が暗いし、制御装置が奥側に位置することによって、制御装置の点検や封印の作業が非常に煩わしいという問題がある。そこで、制御装置を回動して水平姿勢にしたとしても、本体キャビネットの内部で起立姿勢から水平姿勢に回動するに過ぎないため、本体キャビネットの内部が暗く、制御装置の点検や封印の作業が煩わしいという問題が依然として残る。特に、制御装置を回動して水平姿勢にした場合には、制御装置の前面側が、リールユニット上またはリールユニット上の板に近接した状態となるため、かかる前面側を目視確認できず、起立姿勢の制御装置に対してその前面側を目視確認しなければならず、不正行為発見に劣る。

【0309】

前述した第2先行例のスロットマシンでは、リールユニット上にスライド支持板が常時存在するため、リールユニットの交換作業がし辛いという問題がある。また、スライド支持板に水平姿勢で取り付けられた制御装置は、本体キャビネットの内部奥側に起立姿勢で取り付けられた場合に比べて、前面側に近いため、不正行為を受け易いという問題がある。また、スライド支持版を本体キャビネットの開口から突出させた状態で制御装置の上面を目視確認できるものの、その制御装置の下面(制御装置でのスライド支持板と対向する面)を目視確認できないため、制御装置の下面に不正な基板を取り付けた不正行為を発見できないという問題もある。

【0310】

以下の発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、リールユニットの交換作業の邪魔にならず、制御装置の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御装置に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

【0311】

(5) 前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

複数の図柄を変動表示する、前記筐体内部に設けられた遊技部品と、

遊技に関する制御を行う制御手段と、

前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、前記制御手段をその前面及び裏面が視認可能に前記筐体の前記開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する変位支持手段と、

を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0312】

前記(5)に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。遊技部品は、筐体内部に設けられており、複数の図柄を変動表示する。制御手段は、遊技に関する制御を行う。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に筐体の開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する。

【0313】

したがって、変位支持手段による制御手段の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。

【0314】

また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態では、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に、少なくとも一部が筐体の開口から引き出した状態で支持するので、筐体内部の暗がりの中で制御手段全体が入ったままで確認するのではなく、筐体から少なくとも一部が引き出した状態でしかも制御手段の前面及び裏面が視認可能であるので、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、遊技部品(例えば、リールユニット)の交換作業の邪魔にならず、制御手段(例えば、制御装置)の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0315】

なお、本明細書で言う「筐体」は、前面側に開口を有する、上板、下板、左板、右板及び奥板からなる箱体以外にも、奥板無しの枠体としてもよい。また、本明細書で言う「遊技部品」としては、複数の図柄(単数の図柄であってもよい)を変動表示する図柄変動表示手段(例えば、リールユニットや画像表示装置)や遊技媒体関連装置(例えば、ホッパー)など各種の遊技部品が挙げられる。また、本明細書で言う「前面及び裏面が視認可能」とは、前面及び裏面の少なくとも一部が視認可能であってもよい。また、本明細書で言う「開口から引き出した状態」とは、制御手段の少なくとも一部が開口から引き出した状態をいう。よって、制御手段の一部が開口内にあるものを含む。

【0316】

(6) 前記(5)に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第1支持部と、この第1支持部が取り外し不可に連結されて前記第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する第2支持部と、前記第2支持部が取り外し不可に連結されて当該第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第3支持部とを備え、

前記制御手段を前記第1支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0317】

前記(6)に記載の発明によれば、変位支持手段は、第1～第3支持部を備えている。第1支持部は、制御手段を支持する。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可に連結されており、第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する。第3支持部は、第2支持部が取り外し不可に連結されており、第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方面所に固定される。封印手段は、制御手段を第1支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第1支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第1支持部から取り外すことを低減できる。また、第1～第3支持部が取り外し不可に連結されているので、第1～第3支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第1、第2支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【0318】

特に、第1支持部と第2支持部との連結構造としては、第1支持部での第2支持部に近い側の箇所であって両外側からピン圧入やネジ止めなどして当該第1支持部を第2支持部に対して進退自在に固定することが好ましい。この場合には、筐体の側面視で上記連結箇所が当該筐体の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、第1～第3支持部ごとに取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができる。つまり、かかる連結部分が露わにならないように配設するのが好ましい。

【0319】

なお、本明細書で言う「取り外し不可」とは、一般的な工具(ドライバー)によって、又は手作業によっては取り外せないことを意味する。

【0320】

(7) 前記(6)に記載の遊技機において、

前記第2支持部は、前記第3支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、前記第1支持部を前記収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、前記第1支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第1支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部とを備え、

前記第1支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第1支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第1支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【0321】

前記(7)に記載の発明によれば、第2支持部は、第3支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、第1支持部を収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、第1支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第1支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部とを備えている。被破壊部は、第1支持部または制御手段の少なくとも一方に設けられ、第1支持部の水平状態において封印手段による封印を解除するために破壊される。第1支持部は、被破壊部の破壊によって封印が解除された制御手段を支持する。したがって、制御手段を支持する第1支持部を第2支持部の収容位置にした状態で、この第2支持部を起立姿勢とした収納支持状態から、この第2支持部を第3支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、第1支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第1支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除する場合でも、第1支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。

【 0 3 2 2 】

(8) 前記 (5) に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第 1 支持部と、この第 1 支持部が取り外し不可に連結されて前記第 1 支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第 1 支持部を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となる第 2 支持部と、前記第 2 支持部が取り外し不可に連結されて当該第 2 支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第 3 支持部とを備え、

前記制御手段を前記第 1 支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備えていることを特徴とする遊技機。

【 0 3 2 3 】

前記 (8) に記載の発明によれば、変位支持手段は、第 1 ~ 第 3 支持部を備えている。第 1 支持部は、制御手段を支持する。第 2 支持部は、第 1 支持部が取り外し不可に連結されており、第 1 支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第 1 支持部を回動自在に支持するものであって、起立姿勢では折り畳み状態となり、傾倒姿勢では伸張状態となる。第 3 支持部は、第 2 支持部が取り外し不可に連結されており、第 2 支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第 1 支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第 1 支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第 1 支持部から取り外すことを低減できる。また、第 1 ~ 第 3 支持部が取り外し不可に連結されているので、第 1 ~ 第 3 支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第 1 , 第 2 支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【 0 3 2 4 】

特に、第 1 支持部と第 2 支持部との連結構造としては、第 1 支持部での第 2 支持部に近い側の箇所であって両外側からピン圧入やネジ止めなどして当該第 1 支持部を第 2 支持部に対して回動自在に固定することが好ましい。この場合には、筐体の側面視で上記連結箇所が当該筐体の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、第 1 ~ 第 3 支持部ごとに取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができる。つまり、かかる連結部分が露わにならないように配設するのが好ましい。

【 0 3 2 5 】

(9) 前記 (8) に記載の遊技機において、

前記第 1 支持部は、起立姿勢の前記第 2 支持部の前記収容位置から回動して水平姿勢となり、

前記第 2 支持部は、前記第 1 支持部が取り外し不可で当該第 1 支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第 1 腕部材と、この第 1 腕部材の後端側に取り外し不可で当該第 1 腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第 2 腕部材とを備え、この第 2 腕部材の後端側が前記第 3 支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で前記第 1 腕部材と前記第 2 腕部材とを折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、前記第 1 腕部材と前記第 2 腕部材とを伸張した水平姿勢となり、

前記変位支持手段は、当該第 1 腕部材と前記第 2 腕部材とを伸張した水平姿勢にして前記第 1 支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部を備え、

前記第 1 支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第 1 支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第 1 支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【0326】

前記(9)に記載の発明によれば、第1支持部は、起立姿勢の第2支持部の収容位置から回動して水平姿勢となる。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可で当該第1支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第1腕部材と、この第1腕部材の後端側に取り外し不可で当該第1腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第2腕部材とを備え、この第2腕部材の後端側が第3支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第1腕部材と第2腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第1腕部材と第2腕部材とを伸張した水平姿勢となる。変位支持手段は、第1腕部材と第2腕部材とを伸張した水平姿勢にして第1支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部を備えている。被破壊部は、第1支持部または制御手段の少なくとも一方に設けられ、第1支持部の水平状態において封印手段による封印を解除するために破壊される。第1支持部は、被破壊部の破壊によって封印が解除された制御手段を支持する。したがって、制御手段を支持する第1支持部を起立姿勢の第2支持部の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第1腕部材と第2腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第1腕部材と第2腕部材とを伸張した水平姿勢とし、第1支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第1支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第1支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。

【0327】

(10) 前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

前記筐体内部に設けられた遊技部品と、

遊技に関する制御を行う制御手段と、

前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、前記制御手段をその一方面及びその反対面が視認可能に前記筐体の前記開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する変位支持手段と、

前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更手段と、
を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0328】

前記(10)に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。遊技部品は、筐体内部に設けられている。制御手段は、遊技に関する制御を行う。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、制御手段をその一方面及びその反対面が視認可能に筐体の開口から引き出した状態で支持する引出支持状態とに変位する。姿勢変更手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更する。

【0329】

したがって、変位支持手段による制御手段の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。

【0330】

また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態では、制御手段をその一方面及びその反対面が視認可能に、少なくとも一部が筐体の開口から引き出した状態で支持するので

、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、筐体から少なくとも一部が引き出した状態で制御手段の一方面及びその反対面のうち上側を向いていた面が視認可能である。さらに、筐体から引き出した状態で制御手段を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更できるので、制御手段の一方面及びその反対面について作業（例えば、メーカー作業、ホール関係者など）の姿勢を変えることなく、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の一方面または反対面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。その結果、遊技部品（例えば、リールユニット）の交換作業の邪魔にならず、制御手段（例えば、制御装置）の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0331】

なお、本明細書で言う「下側を向いていた面」とは、引出支持状態でその下側を向いていた面とは反対面側が確認可能な程度に下側を向いた面をいう。また、本明細書で言う「表向ける」とは、正面向きや上向きも含む。

【0332】

（11） 前記（10）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第1支持部と、この第1支持部が取り外し不可に連結されて前記第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する第2支持部と、前記第2支持部が取り外し不可に連結されて当該第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第3支持部とを備え、

前記制御手段を前記第1支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備え、

前記姿勢変更手段は、前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0333】

前記（11）に記載の発明によれば、変位支持手段は、第1～第3支持部を備えている。第1支持部は、制御手段を支持する。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可に連結されており、第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する。第3支持部は、第2支持部が取り外し不可に連結されており、第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第1支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第1支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第1支持部から取り外すことを低減できる。また、第1～第3支持部が取り外し不可に連結されているので、第1～第3支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第1、第2支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。

【0334】

また、表向き傾斜姿勢保持手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、作業（例えば、メーカー作業、ホール関係者など）は、表向き傾斜姿勢で保持された制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面に正対してこの制御手段の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【0335】

特に、第1支持部と第2支持部との連結構造としては、第1支持部での第2支持部に近

い側の箇所であって両外側からピン圧入やネジ止めなどして当該第 1 支持部を第 2 支持部に進退自在に固定することが好ましい。この場合には、筐体の側面視で上記連結箇所が当該筐体の側面で覆われて隠れるため、かかる連結作業を解除するための作業スペースが少なく、さらに取り外し不可とすることができる。よって、第 1 ～ 第 3 支持部ごとに取り外した状態にすることで、かかる連結箇所の解除作業を行うことができる。つまり、かかる連結部分が露わにならないように配設するのが好ましい。

【 0 3 3 6 】

(1 2) 前記 (1 1) に記載の遊技機において、

前記第 2 支持部は、前記第 3 支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、前記第 1 支持部を前記収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、前記第 1 支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第 1 支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、前記水平保持部で水平状態で保持された前記第 1 支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備え、

前記第 1 支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第 1 支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第 1 支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 3 7 】

前記 (1 2) に記載の発明によれば、第 2 支持部は、第 3 支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢となった状態で、第 1 支持部を収容位置と進出位置とにスライド進退自在に支持するスライド支持部と、第 1 支持部をスライド進出させて進出位置にある状態では、当該第 1 支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、この水平保持部で水平状態で保持された第 1 支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備えている。被破壊部は、第 1 支持部または制御手段の少なくとも一方に設けられ、第 1 支持部の水平状態において封印手段による封印を解除するために破壊される。第 1 支持部は、被破壊部の破壊によって封印が解除された制御手段を支持する。したがって、制御手段を支持する第 1 支持部を第 2 支持部の収容位置にした状態で、この第 2 支持部を起立姿勢とした収納支持状態から、この第 2 支持部を第 3 支持部に対して傾倒姿勢としての水平姿勢とした後に、第 1 支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第 1 支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第 1 支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。また、水平保持部で水平状態で保持された第 1 支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【 0 3 3 8 】

(1 3) 前記 (1 0) に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第 1 支持部と、この第 1 支持部が取り外し不可に連結されて前記第 1 支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第 1 支持部を回動自在に支持するものであって起立姿勢で折り畳み状態となり傾倒姿勢で伸張状態となる第 2 支持部と、前記第 2 支持部が取り外し不可に連結されて当該第 2 支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に固定される第 3 支持部とを備え、

前記制御手段を前記第 1 支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備え、

前記姿勢変更手段は、前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0339】

前記(13)に記載の発明によれば、第1～第3支持部を備えている。第1支持部は、制御手段を支持する。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可に連結されており、第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から回動した回動位置とに当該第1支持部を回動自在に支持するものであって、起立姿勢では折り畳み状態となり、傾倒姿勢では伸張状態となる。第3支持部は、第2支持部が取り外し不可に連結されており、第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第1支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第1支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第1支持部から取り外すことを低減できる。また、第1～第3支持部が取り外し不可に連結されているので、第1～第3支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第1、第2支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【0340】

また、表向き傾斜姿勢保持手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態で前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、作業員(例えば、メーカー作業員、ホール関係者など)は、表向き傾斜姿勢で保持された制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面に正対してこの制御手段の点検及び封印等の作業を行うことができる。

【0341】

(14) 前記(13)に記載の遊技機において、

前記第1支持部は、起立姿勢の前記第2支持部の前記収容位置から回動して水平姿勢となり、

前記第2支持部は、前記第1支持部が取り外し不可で当該第1支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第1腕部材と、この第1腕部材の後端側に取り外し不可で当該第1腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第2腕部材とを備え、この第2腕部材の後端側が前記第3支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で前記第1腕部材と前記第2腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、前記第1腕部材と前記第2腕部材とを伸張した水平姿勢となり、

前記第2支持部は、前記第1腕部材と前記第2腕部材とを伸張した水平姿勢にして前記第1支持部を前記筐体の前記開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、前記水平保持部で水平状態で保持された前記第1支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備え、

前記第1支持部または前記制御手段の少なくとも一方は、当該第1支持部の水平状態において前記封印手段による封印を解除するために破壊される被破壊部を備え、

前記第1支持部は、前記被破壊部の破壊によって封印が解除された前記制御手段を支持する

ことを特徴とする遊技機。

【0342】

前記(14)に記載の発明によれば、第1支持部は、起立姿勢の第2支持部の収容位置から回動して水平姿勢となる。第2支持部は、第1支持部が取り外し不可で当該第1支持部が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備えた第1腕部材と、この第1腕部材の後端側に取り外し不可で当該第1腕部材が回動自在に連結された回動連結部を先端側に備

えた第2腕部材とを備え、この第2腕部材の後端側が第3支持部に対して回動自在に連結支持されており、側面視で第1腕部材と第2腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第1腕部材と第2腕部材とを伸張した水平姿勢となる。第2支持部は、第1腕部材と第2腕部材とを伸張した水平姿勢にして第1支持部を筐体の開口から引き出した水平状態で保持する水平保持部と、この水平保持部で水平状態で保持された第1支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持する表向き傾斜姿勢保持部と、を備えている。したがって、制御手段を支持する第1支持部を起立姿勢の第2支持部の収容位置から回動して水平姿勢とし、側面視で第1腕部材と第2腕部材とが折り畳んで重なるようにした起立姿勢から、第1腕部材と第2腕部材とを伸張した水平姿勢とし、第1支持部を筐体の開口から引き出して水平状態で保持することができ、第1支持部の水平状態において被破壊部の破壊作業つまり封印解除作業がし易い。特に、被破壊部は、手前側に配設されている方が作業性がよい。また、力を入れて封印解除するような場合でも、第1支持部の水平状態が水平保持部によって保持されるので、下方の遊技部品を保護することができる。また、水平保持部で水平状態で保持された第1支持部を前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面を表向けるように姿勢変更した表向き傾斜姿勢で保持するので、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面の点検及び封印等の作業を容易に行うことができ、制御手段の前記一方面及びその反対面のうち下側を向いていた面への不正な基板の取り付けが発見し易い。

【0343】

(15) 前記(1)から(14)のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記制御手段は、遊技に関する所定の制御を司る制御基板と、前記制御基板を内部に収容する基板収容ケースとを備え、

前記封印手段は、前記基板収容ケースから前記制御基板の取り出しを抑止するものであり、

さらに、前記封印手段は、係止部材が挿入される、前記第1支持部に形成された挿入部と、前記挿入部に挿入された前記係止部材が挿入されて引き抜き不可に係止する、前記基板収容ケースに形成された被封印部とを備え、

前記被封印部は、前記基板収容ケースから前記制御基板の取り出しの抑止を解除するべく破壊される抑止解除用被破壊部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0344】

前記(15)に記載の発明によれば、制御手段は、遊技に関する所定の制御を司る制御基板と、この制御基板を内部に収容する基板収容ケースとを備えている。封印手段は、基板収容ケースから制御基板の取り出しを抑止するものである。さらに、封印手段は、係止部材が挿入される、第1支持部に形成された挿入部と、この挿入部に挿入された係止部材が挿入されて引き抜き不可に係止する、基板収容ケースに形成された被封印部とを備えている。被封印部は、基板収容ケースから制御基板の取り出しの抑止を解除するべく破壊される抑止解除用被破壊部を備えている。したがって、抑止解除用被破壊部を破壊することで、基板収容ケースから制御基板を取り出し可能とすることができ、抑止解除用被破壊部の破壊痕を見ることで、基板収容ケースが開封されたことがわかる。

【0345】

(16) 前記(15)に記載の遊技機において、

前記基板収容ケースは、前記制御基板が取り付けられる第1ケース体と、前記第1ケース体でのその制御基板取付面側に合わされる第2ケース体とを備え、前記第1ケース体と前記第2ケース体とを合わせた状態で前記第1ケース体または前記第2ケース体の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで前記第1ケース体と前記第2ケース体とに係止する係止手段を備え、

前記封印手段は、前記係止手段によって係止状態とされた前記第1ケース体及び前記第2ケース体を開封不可に封止する

ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 4 6 】

前記（ 1 6 ）に記載の発明によれば、基板収容ケースの係止手段は、制御基板が取り付けられた第 1 ケース体でのその制御基板取付面側に第 2 ケース体を合わせた状態で第 1 ケース体または第 2 ケース体の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで、第 1 ケース体と第 2 ケース体とを係止する。封印手段は、係止手段によって係止状態とされた第 1 ケース体及び第 2 ケース体を開封不可に封止する。したがって、封印手段によって第 1 ケース体及び第 2 ケース体が開封不可に封止されているので、遊技機用基板収容ケースが不正に開封されることを低減できる。また、この封止状態では、係止手段によって第 1 ケース体及び第 2 ケース体がスライド係止されており、第 1 ケース体及び第 2 ケース体をスライド方向に直交する対向方向に開けることができず、基板収容ケースが不正に開封されることを低減できる。

【 0 3 4 7 】

（ 1 7 ） 前記（ 1 6 ）に記載の遊技機において、

前記係止手段は、

前記第 1 ケース体または前記第 2 ケース体の一方のケース体での前記スライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された複数の鉤状突起部と、

前記第 1 ケース体または前記第 2 ケース体の他方のケース体での前記スライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された、前記鉤状突起部が挿入されて係止可能な複数の被鉤状突起係止部とを備えとともに、

前記第 1 ケース体または前記第 2 ケース体の少なくとも一方を前記スライド移動させることで前記鉤状突起部と前記被鉤状突起係止部とが係止する

ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 4 8 】

前記（ 1 7 ）に記載の発明によれば、基板収容ケースの係止手段は、第 1 ケース体または第 2 ケース体の一方のケース体でのスライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された複数の鉤状突起部と、第 1 ケース体または第 2 ケース体の他方のケース体でのスライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された、鉤状突起部が挿入されて係止可能な複数の被鉤状突起係止部とを備えとともに、第 1 ケース体または第 2 ケース体の少なくとも一方をスライド移動させることで鉤状突起部と被鉤状突起係止部とが係止するので、封印手段によって第 1 ケース体及び第 2 ケース体が開封不可に封止された封止状態では、第 1 ケース体または第 2 ケース体の両辺で所定長さに亘って配置された複数の鉤状突起部及び被鉤状突起係止部でスライド係止されており、細状の不正具を第 1 ケース体と第 2 ケース体との間に挿し入れるなどして第 1 ケース体と第 2 ケース体との間に隙間を開けたり、第 1 ケース体及び第 2 ケース体を開けたりすることを低減でき、基板収容ケースが不正に隙間形成や開封されることを低減できる。

【 0 3 4 9 】

また、本明細書は、次のような第 2 課題を解決できる、遊技機に係る発明も開示している。

【 0 3 5 0 】

< 第 2 課題 >

従来の前述した第 1 先行例及び第 2 先行例のスロットマシンでは、例えば、リールユニットの上部に設けられた上面板は、側面視で回転リールの前面側の上方位置には存在しておらず、かかる位置で交換作業中の制御装置を誤って落下させてしまうと、制御装置が回転リールに当たって当該回転リールが損傷してしまうという問題がある。

【 0 3 5 1 】

また、第 1 先行例及び第 2 先行例のスロットマシンでは、リールユニット上に上面板が常時存在するため、リールユニットの交換作業がし辛いという問題がある。

【 0 3 5 2 】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御装置の誤落下によるリ

ールユニットの損傷低減及びリールユニットの交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【 0 3 5 3 】

(1 8) 前面側に開口を有する筐体と、
前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
複数の図柄を変動表示する、前記筐体内部に設けられた遊技部品と、
前記筐体の内部で且つ前記遊技部品の上方箇所に収納される、遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態と、少なくとも一部が前記遊技部品よりも前側に位置するように前記筐体の前記開口側に引き出された引出状態と、に変位する変位保護手段と、
を備えている
ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 5 4 】

前記 (1 8) に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行うものであり、筐体の内部で且つ遊技部品の上方箇所に収納される。変位保護手段は、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納された収納状態と、少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように筐体の開口側に引き出された引出状態とに変位する。

【 0 3 5 5 】

したがって、変位保護手段の収納状態では、筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。

【 0 3 5 6 】

また、変位保護手段の引出状態では、その少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように筐体の開口側に引き出された状態となっているので、装着の際に誤って制御手段を落下させたとしても、制御手段が引出状態の変位保護手段に当るだけで、この引出状態の変位保護手段の下方の遊技部品に当たらないので、遊技部品が損傷することが低減でき、遊技部品を保護することができる。

【 0 3 5 7 】

その結果、制御手段（例えば、制御装置）の誤落下による遊技部品（例えば、リールユニット）の損傷を低減でき、遊技部品（例えば、リールユニット）の交換作業を容易に行うことができる遊技機を提供することができる。

【 0 3 5 8 】

(1 9) 前記 (1 8) に記載の遊技機において、
前記変位保護手段は、前記制御手段が取り付けられる被取付体を備えるとともに、前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように前記被取付体を支持する収納支持状態と、前記被取付体の少なくとも一部が前記遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を前記筐体の前記開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位するものであり、
前記被取付体は、前記引出支持状態において前記制御手段が載置されて当該制御手段の載置面側を覆う覆い部を備えている
ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 5 9 】

前記 (1 9) に記載の発明によれば、変位保護手段は、制御手段が取り付けられる被取付体を備えるとともに、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように被取付体を支持する収納支持状態と、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する。被取付体は、引出支持状態において制御手段が載置されて当該

制御手段の載置面側を覆う覆い部を備えている。

【 0 3 6 0 】

したがって、変位保護手段による被取付体の引出支持状態では、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出された状態となっており、被取付体は、制御手段の載置面側を覆う覆い部を備えているので、工具や部品などを誤って落下させた場合であっても、落下工具や落下部品を被取付体の覆い部で受け止めることができ、この被取付体の下方にある遊技部品に落下工具や落下部品を当てることが低減でき、落下工具や落下部品から遊技部品を保護することができる。

【 0 3 6 1 】

(2 0) 前記 (1 8) または (1 9) に記載の遊技機において、

前記変位保護手段による前記引出支持状態の前記被取付体が開状態の前記扉の内側所定箇所に当接することで、前記扉を開状態に維持する扉閉まり抑止手段を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 6 2 】

前記 (2 0) に記載の発明によれば、扉閉まり抑止手段は、変位保護手段による引出支持状態の被取付体が開状態の扉の内側所定箇所に当接することで、扉を開状態に維持するので、作業者は扉を開状態に維持するようにしておく必要がなく、制御手段の着脱作業に集中できる。また、制御手段の着脱作業中に扉が勢いよく閉まろうとして部品や装置が損傷することを低減できる。

【 0 3 6 3 】

また、本明細書は、次のような第 3 課題を解決できる、遊技機に係る発明も開示している。

【 0 3 6 4 】

< 第 3 課題 >

従来の前述した第 1 先行例及び第 2 先行例のスロットマシンでは、例えば、リールユニットの上部に設けられた上面板は、側面視で回転リールの前面側の上方位置には存在しておらず、かかる位置で交換作業中の制御装置を誤って落下させてしまうと、制御装置が回転リールに当たって当該回転リールが損傷してしまうという問題がある。また、制御装置の着脱の際に、制御装置を回転リールに接触させてしまい、当該回転リールが損傷してしまうという問題がある。

【 0 3 6 5 】

また、第 1 先行例及び第 2 先行例のスロットマシンでは、リールユニット上に上面板が常時存在するため、リールユニットの交換作業がし辛いという問題がある。

【 0 3 6 6 】

また、前述した第 1 先行例のスロットマシンでは、例えば、本体キャビネットの内部奥側に位置する起立姿勢の制御装置に対しては、本体キャビネットの内部が暗いし、制御装置が奥側に位置することもあるとあって、制御装置の点検や封印の作業が非常に煩わしいという問題がある。そこで、制御装置を回動して水平姿勢にしたとしても、本体キャビネットの内部で起立姿勢から水平姿勢に回動するに過ぎないため、本体キャビネットの内部が暗く、制御装置の点検や封印の作業が煩わしいという問題が依然として残る。また、前述した第 2 先行例のスロットマシンでは、スライド支持板に水平姿勢で取り付けられた制御装置は、本体キャビネットの内部奥側に起立姿勢で取り付けられた場合に比べて、前面側に近いいため、不正行為を受け易いという問題がある。

【 0 3 6 7 】

本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、制御装置の誤落下や接触によるリールユニットの損傷低減及びリールユニットの交換作業を容易に行うことができ、且つ、制御装置に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。

【 0 3 6 8 】

(2 1) 前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、

前記筐体内部に設けられた遊技部品と、
遊技に関する制御を行う制御手段と、
前記制御手段が取り付けられる被取付体と、

前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように前記被取付体を支持する収納支持状態と、前記被取付体の少なくとも一部が前記遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を前記筐体の前記開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する変位支持手段と、

を備え、

前記被取付体は、前記引出支持状態において前記制御手段が上方から載置される載置部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【 0 3 6 9 】

前記(2 1)に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。制御手段は、遊技に関する制御を行う。被取付体は、制御手段が取り付けられる。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納するように被取付体を支持する収納支持状態と、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出して支持する引出支持状態と、に変位する。被取付体は、引出支持状態において制御手段が上方から載置される載置部を備えている。

【 0 3 7 0 】

したがって、変位支持手段による被取付体の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ遊技部品の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、遊技部品の上方スペースを確保でき、遊技部品の交換作業の邪魔にならない。

【 0 3 7 1 】

また、変位支持手段による被取付体の引出支持状態では、被取付体の少なくとも一部が遊技部品よりも前側に位置するように当該被取付体を筐体の開口側に引き出された状態となっており、制御手段は、この引出支持状態の被取付体の載置部に載置されて取り付けられるので、制御手段の被取付体への装着がし易い。また、装着の際に誤って制御手段を落下させたとしても、制御手段が引出支持状態の被取付体に当るだけで、この引出支持状態の被取付体の下方の遊技部品に当たらないので、遊技部品が損傷することが低減でき、遊技部品を保護することができる。また、変位支持手段及びこの変位支持手段による引出支持状態の被取付体を、遊技部品を保護する機構として使用することができるし、制御手段の落下防止機構としても使用することができる。

【 0 3 7 2 】

また、制御手段を取り付ける際には、引き出されて水平姿勢の被取付体の載置部に上方から制御手段を載置して取り付け、制御手段を取り外す際には、引き出されて水平姿勢の被取付体の載置部の上方に制御手段を引き上げて取り外すので、制御手段を遊技部品に接触させることがなく、当該遊技部品を損傷させることが防止できる。

【 0 3 7 3 】

また、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、変位支持手段によって筐体から引き出した引出支持状態で制御手段を視認できるので、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【 0 3 7 4 】

その結果、制御手段(例えば、制御装置)の誤落下や接触による遊技部品(例えば、リールユニット)の損傷を低減でき、遊技部品(例えば、リールユニット)の交換作業を容

易に行うことができ、且つ、制御手段（例えば、制御装置）に対する不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【0375】

（22） 前記（21）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段による前記引出支持状態の前記被取付体は、前記制御手段が前記載置部から持ち上げて取り外され、前記制御手段が前記載置部に載置して取り付けられることを特徴とする遊技機。

【0376】

前記（22）に記載の発明によれば、変位支持手段による引出支持状態の被取付体は、制御手段が載置部から持ち上げて取り外され、制御手段が載置部に載置して取り付けられるので、制御手段の着脱の際に、遊技部品に当ることが低減できる。

【0377】

（23） 前記（21）または（22）に記載の遊技機において、

前記載置部は、前記引出支持状態の前記被取付体の下部側に形成されて、前記制御手段での当該載置部と対向する面における少なくとも二箇所を支持する透明支持部であることを特徴とする遊技機。

【0378】

前記（23）に記載の発明によれば、載置部は、引出支持状態の被取付体の下部側に形成されて、制御手段での当該載置部と対向する面における少なくとも二箇所を支持する透明支持部であるので、制御手段での当該載置部と対向する面を目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。

【0379】

（24） 前記（21）または（22）に記載の遊技機において、

前記載置部は、前記引出支持状態の前記被取付体の下部側に形成されて、前記制御手段での当該載置部と対向する面全体に亘る透明面状部であることを特徴とする遊技機。

【0380】

前記（24）に記載の発明によれば、載置部は、引出支持状態の被取付体の下部側に形成されて、制御手段での当該載置部と対向する面全体に亘る透明面状部であるので、制御手段の被取付体からの落下を防止できる。また、載置部が透明面状部であるので、制御手段での当該載置部と対向する面を目視確認することができ、かかる箇所に不正な基板（部品など）を配設することを低減できる。

【0381】

（25） 前面側に開口を有する筐体と、

前記筐体の前面側で開閉可能であって閉状態で前記開口を閉塞する扉と、
複数の図柄を変動表示する、前記筐体内部に設けられた図柄変動表示手段と、
遊技に関する制御を行う制御手段と、

前記制御手段を前記筐体の内部奥側で且つ前記図柄変動表示手段の上方箇所に起立姿勢で収納支持する収納支持状態と、前記制御手段をその前面及び裏面が視認可能に前記筐体の前記開口から引き出した傾倒姿勢で支持する引出支持状態とに変位する変位支持手段と

、
前記収納支持状態から前記引出支持状態に変位する際の前記制御手段の引き出し姿勢を規制する引出姿勢規制手段と、

を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0382】

前記（25）に記載の発明によれば、筐体は、前面側に開口を有する。扉は、筐体の前面側で開閉可能であって閉状態でその開口を閉塞する。図柄変動表示手段は、筐体内部に設けられており、複数の図柄を変動表示する。制御手段は、遊技に関する制御を行う。変位支持手段は、制御手段を筐体の内部奥側で且つ図柄変動表示手段の上方箇所に起立姿勢

で収納支持する収納支持状態と、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に筐体の開口から引き出した傾倒姿勢で支持する引出支持状態とに変位する。

【0383】

したがって、変位支持手段による制御手段の収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で且つ図柄変動表示手段の上方箇所に起立姿勢で収納支持されているので、不正行為がし辛く、不正行為を低減できる。また、この収納支持状態では、制御手段が筐体の内部奥側で起立姿勢で収納支持されているので、図柄変動表示手段の上方スペースを確保でき、図柄変動表示手段の交換作業の邪魔にならない。

【0384】

また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態では、制御手段をその前面及び裏面が視認可能に、筐体の開口から引き出した傾倒姿勢で支持するので、筐体内部の暗がりの中で制御手段を確認するのではなく、筐体から引き出した傾倒姿勢でしかも制御手段の前面及び裏面が視認可能であるので、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易で確実に発見することができる。また、不正行為者が扉を開状態にして、制御手段を筐体の開口から引き出した状態で不正行為を施そうとしても、それらの行為が目立つため、不正行為がし辛く、不正行為を低減することができる。

【0385】

また、引出姿勢規制手段は、収納支持状態から引出支持状態に変位する際の制御手段の引き出し姿勢を規制するので、制御手段の引き出しの際に筐体内部の他の部品などと接触させることを防止できる。例えば、誰が作業しても制御手段を規制された引き出し姿勢で引き出しすることができ、作業による制御手段の引き出し方の違いで制御手段を筐体内部の他の部品などと接触させてしまうという問題を解消することができる。また、引出姿勢規制手段による制御手段の引き出し姿勢の規制に従って当該制御手段を引き出せばよいので、初めての作業での戸惑いなくスムーズに制御手段を引き出すことができる。

【0386】

その結果、図柄変動表示手段（例えば、リールユニット）の交換作業の邪魔にならず、制御手段（例えば、制御装置）の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減でき、制御手段の引き出しの際に筐体内部の他の部品等との接触を防止できる遊技機を提供することができる。

【0387】

（26） 前記（25）に記載の遊技機において、

前記引出姿勢規制手段は、前記起立姿勢の前記制御手段の下辺側を回動軸として当該制御手段を回動させた傾倒姿勢とした後に、当該傾倒姿勢の前記制御手段を引き出すように規制する

ことを特徴とする遊技機。

【0388】

前記（26）に記載の発明によれば、引出姿勢規制手段は、起立姿勢の制御手段の下辺側を回動軸として当該制御手段を回動させた傾倒姿勢とした後に、当該傾倒姿勢の制御手段を引き出すように規制するので、制御手段が傾倒姿勢以外の禁止姿勢（例えば、傾斜姿勢や起立姿勢）で引き出されることを規制でき、この禁止姿勢での引き出しによる筐体内部の他の部品などへの接触を防止できる。

【0389】

（27） 前記（26）に記載の遊技機において、

前記変位支持手段は、前記制御手段を支持する第1支持部と、この第1支持部が取り外し不可に連結されて前記第1支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第1支持部を進退自在に支持する第2支持部と、前記第2支持部が取り外し不可に連結されて当該第2支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに前記筐体の内部奥側で且つ前記図柄変動表示手段の上方箇所に固定される第3支持部とを備え、

前記制御手段を前記第 1 支持部に取り外し不可に封印する封印手段を備え、

前記引出姿勢規制手段は、前記第 3 支持部の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して前記傾倒姿勢の前記第 2 支持部の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該第 3 支持部に固定された一对の延出固定部材を備え、

前記一对の延出固定部材は、前記第 1 支持部が前記収納位置に収められた状態において前記第 2 支持部の前記起立姿勢と前記傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部と、前記第 2 支持部が前記傾倒姿勢である状態において前記第 1 支持部の前記収容位置と前記進出位置との進退を許容する進退許容部とをそれぞれ備えており、前記筐体内部の両側壁面の近傍に位置している

ことを特徴とする遊技機。

【0390】

前記(27)に記載の発明によれば、変位支持手段は、第 1～第 3 支持部を備えている。第 1 支持部は、制御手段を支持する。第 2 支持部は、第 1 支持部が取り外し不可に連結されており、第 1 支持部を収めた収容位置とこの収容位置から進出した進出位置とに当該第 1 支持部を進退自在に支持する。第 3 支持部は、第 2 支持部が取り外し不可に連結されており、第 2 支持部を起立姿勢と傾倒姿勢とに回動自在に支持するとともに、筐体の内部奥側で且つ図柄変動表示手段の上方箇所に固定される。封印手段は、制御手段を第 1 支持部に取り外し不可に封印する。したがって、封印手段によって制御手段が第 1 支持部に取り外し不可に封印されているので、制御手段を第 1 支持部から取り外すことを低減できる。また、第 1～第 3 支持部が取り外し不可に連結されているので、第 1～第 3 支持部を取り外したりすることを低減できる。その結果、制御手段だけを取り外したり、制御手段を第 1、第 2 支持部ごとを取り外したりして制御手段に不正を施して戻したり、制御手段を取り外して別の不正な制御手段に交換したりすることを低減でき、制御手段への不正対策に優れる。また、変位支持手段による制御手段の引出支持状態を好適に実現することができる。

【0391】

また、引出姿勢規制手段は、第 3 支持部の正面視で両端箇所から前方にそれぞれ延出して傾倒姿勢の第 2 支持部の両側面に側面視でそれぞれ重なるように当該第 3 支持部に固定された一对の延出固定部材を備えている。この一对の延出固定部材は、第 1 支持部が収納位置に収められた状態において第 2 支持部の起立姿勢と傾倒姿勢との回動を許容する回動許容部と、第 2 支持部が傾倒姿勢である状態において第 1 支持部の収容位置と進出位置との進退を許容する進退許容部とをそれぞれ備えている。また、一对の延出固定部材は、筐体内部の両側壁面の近傍に位置しているので、第 1 支持部と第 2 支持部との連結箇所に不正にアクセスすることを困難にでき、かかる連結を不正に解除することを低減できる。

【0392】

(28) 前記(27)に記載の遊技機において、

前記延出固定部材の前記回動許容部は、前記第 2 支持部の回動を許容するべく円弧状の切り欠き孔であり、

前記延出固定部材の前記進退許容部は、前記円弧状の切り欠き孔に連通されて、前記第 1 支持部の進退を許容するべく直線状の切り欠き孔であり、

前記第 1 支持部は、その両側面箇所に、かしめ穴が形成され、

前記第 2 支持部は、その両側面箇所に、前記第 1 支持部の進退方向に延びる直線状切り欠き孔が形成され、

圧入ピンを、前記延出固定部材の前記切り欠き孔と、前記第 2 支持部の直線状切り欠き孔とにその順番に挿入した状態で前記第 1 支持部の前記かしめ穴に圧入することで、前記第 1 支持部が前記第 2 支持部に取り外し不可に連結され、

前記圧入ピンの長さは、前記延出固定部材と前記筐体の内面との距離よりも長くなっている

ことを特徴とする遊技機。

【0393】

前記(28)に記載の発明によれば、延出固定部材の回動許容部は、第2支持部の回動を許容するべく円弧状の切り欠き孔となっている。延出固定部材の進退許容部は、円弧状の切り欠き孔に連通されて、第1支持部の進退を許容するべく直線状の切り欠き孔となっている。第1支持部は、その両側面箇所に、かしめ穴が形成されている。第2支持部は、その両側面箇所に、第1支持部の進退方向に延びる直線状切り欠き孔が形成されている。圧入ピンを、延出固定部材の切り欠き孔と、第2支持部の直線状切り欠き孔とにその順番に挿入した状態で第1支持部のかしめ穴に圧入することで、第1支持部が第2支持部に取り外し不可に連結されている。圧入ピンの長さは、延出固定部材と筐体の内面との距離よりも長くなっているため、圧入ピンを不正に抜こうとしても、そのピン頭が筐体の内面に当り抜くことができない。よって、圧入ピンの不正な抜き取りを低減できる。

【0394】

(29) 前記(27)または(28)に記載の遊技機において、

前記制御手段を前記筐体の前記開口から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する姿勢変更手段を備え、

前記一对の延出固定部材は、前記傾倒姿勢の前記第2支持部から前記第1支持部が前記進出位置に進出された状態において前記第1支持部の裏面を表向けることを許容する表向け許容部をそれぞれ備えている

ことを特徴とする遊技機。

【0395】

前記(29)に記載の発明によれば、姿勢変更手段は、制御手段を筐体の開口から引き出した引出支持状態でその裏面を表向けるように姿勢変更する。一对の延出固定部材は、傾倒姿勢の第2支持部から第1支持部が進出位置に進出された状態において第1支持部の裏面を表向けることを許容する表向け許容部をそれぞれ備えている。したがって、筐体から引き出した状態で制御手段をその裏面を表向けるように姿勢変更できるので、制御手段の前面及び裏面について作業(例えば、メーカー作業、ホール関係者など)の姿勢を変えることなく、制御手段の点検及び封印等の作業を容易に行うことができるし、制御手段の前面または裏面に不正な基板が付けられたとしてもそれを容易に発見することができる。

【0396】

(30) 前記(1)から(29)のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機。

【0397】

前記(30)に記載の遊技機によれば、遊技部品(例えば、リールユニット)の交換作業の邪魔にならず、制御手段(例えば、制御装置)の点検及び封印等の作業が容易であり、且つ、制御手段に対する不正行為を低減できるスロットマシンを提供できる。なお、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後、識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段(例えば操作レバー)の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段(例えばストップボタン)の操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技用媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【0398】

なお、本明細書に開示する種々の発明に関して、全ての構成要素について種々の組み合わせが可能であり、他の構成要件がなくても単独で発明として成立する点に留意されたい。

【産業上の利用可能性】

【0399】

以上のように、この発明は、スロットマシン等の遊技機に適している。

【符号の説明】

【 0 4 0 0 】

- 1 1 ... 本体 (筐体)
- 1 1 a ... 開口部 (開口)
- 1 2 ... 前面扉 (扉)
- 2 5 ... リールユニット (図柄変動表示手段)
- 7 0 ... 主制御装置 (制御手段)
- 7 1 ... ケース上 (第 1 ケース体)
- 7 2 ... ケース下 (第 2 ケース体)
- 7 3 ... 主制御基板 (制御基板)
- 7 4 ... 基板ケース (基板収容ケース)
- 1 0 0 ... 取付台 (変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段)
- 1 1 0 ... 固定ベース (第 3 支持部)
- 1 2 0 ... 回動枠体 (第 2 支持部)
- 1 2 5 ... スライド支持部
- 1 2 6 ... 水平保持部
- 1 3 0 ... スライド枠体 (第 1 支持部、被取付体)
- 1 3 5 ... 延出部 (破壊部品落下防止手段、載置部)
- 1 3 7 ... 支持用延出片 (載置部)
- 1 3 6 ... ピン挿入孔 (挿入部)
- 1 4 0 ... 姿勢変更機構部 (姿勢変更手段)
- 1 4 1 ... 表向き傾斜姿勢保持部 (表向き傾斜姿勢保持手段)
- 1 5 0 ... 封止部材 (封止手段)
- 1 6 6 ... ケース封止解除用被切断部 (封止解除用被破壊部)
- 1 9 0 ... 別封止部材 (封印手段、封止手段)
- 1 9 2 ... 別被封止部 (被封止部)
- 1 9 3 ... 二重かしめピン (係止部材)
- 1 9 6 ... 取付解除用被切断部 (抑止解除用被破壊部、封止解除用被破壊部)
- 2 0 0 ... 取付台 (変位支持手段、隠蔽露出変更支持手段、変位保護手段)
- 2 1 0 ... 固定ベース (第 3 支持部)
- 2 2 0 ... リンク枠体 (第 2 支持部)
- 2 2 6 ... 水平保持部
- 2 3 0 ... 支持枠体 (第 1 支持部、被取付体)
- 2 3 5 ... 延出部 (破壊部品落下防止手段、載置部)
- 2 3 7 ... 支持用延出片 (載置部)
- 2 4 0 ... 姿勢変更機構部 (姿勢変更手段)
- 2 4 1 ... 表向き傾斜姿勢保持部 (表向き傾斜姿勢保持手段)
- 3 0 0 ... 引出姿勢規制部 (引出姿勢規制手段)
- 3 1 0 ... 延出固定部材